世間妄形氣

高輪大

へ13
1619

1619

八文字屋紙。其績自笑話戯作迄

今日中よ。近世俗間の採採あてあ

滴乃序ふ。諸分が糸口引てあ。侍

捩車此縄をまぐりて。高貴のろろ

形機出生れた。祝季乃言葉賀氣と

こゝ中よ形めたりとゝ尼。石塵義て

祝ゝ時と出し。西西ぐらい家義と

むすこ此家中形意ゝ時ぐなよ。

K

孫うまれ、如何乃至代所、哀。母おもひ
言葉慶樂よむ、さそ〳〵哉ける。
又小むすめ婚姻ぞ。こゝ所をも
偷なるに。某ものの弟舞妓ゝ思たく
よもやと。偖もかしたる物光が業績。
きゝて、まるんの。誠よまねられず。荒
にて手形ハ。はゝ宮宿子妹中一面
とかりて。もゝ式代のかゝみハあゝ事。

ゝ兵ゝ喜説をいたゝれぞ狩色乃脇
姫くよりと。看ゝはゞして七門の滝
ゝ頃ハあまゝ。ふゝきが中ゝ色ゝ、
なゝて。高世てゝ者ゝ。あの原ゝの結。おゝ
ゝ所ゝ。たゝゝ。編て冊ゝ。故ゝ
ゝ利てゝ家ゝ。ゝゝ。ゝれぞゝ。
文理ハ五ゝ式ゝ。名物ぞ。
ゝ数ゝ言ゝ。ゝゝ。ゝ。

一つとして揉まの居。偶なぐさむ一興なり
てもく八文字が糟粕。これを孫子に
寄て。そぞろよまのして十種よこえしめ四巻
よこぬ。り矣をそきる人ハ物ちん。り矣
をそぞろ人をそ尺ぐ寄爾。青年
の和西戌北を　和氏　澤志亭
述

世間妾形氣

一之巻

同孫

第一　人ぎく話

沼ぐ志ま地松
猟夜の湯女
恋びあるさ花へ
山神の代数帳

第二　やでたいか

元日の拾ひ子が
福かこ人丸
舞ごろ二人ゝ
ゆんの男蕎

ほつゝり若い恵く
玉の玉手箱冷
あ迷嵐と
ちゝひろ人蚕の
守り神

其二　織姫芳

一人仏法くもと玉あ撫絵の酒事

ゑせ〜ゝ〜ゝ〜川よせ〜山猿神いゝけどもあよけうゝ。
ひり〜仔粉が成あ社の赤子あたてゝん〜倒彼ゝ柔のれ
息石が仔指ゝで作ゝとひおこゝんゝぷてゝゑんゝゝす〇須
もゝち人のつゝもゝべ清ゝ業平の色月ゝゝくゝゝ今も玉
系の氏ゝる人いお新系ゝゝもゝゝ〜ゝよ〜ゝ嘉よ和ゝゝ〜ゝ国乃
風係もゝあゝもゝゝ〜の法学ゝ毋へゝ玉ゝ毋ゝくゝつけの角也も
者ゝもやせんゝ織ゝが新石逆のゝ法ゝ清ゝゝゝ吹
ゝゝゝゝゝ〜ゝ天ゝよゝ十二人法作ゝ七人ゝ和ゝ人の作ゝ業。
ゝゝゝ毋ゝ毋ゝ毋ゝ毋ゝ毋ゝ毋ゝ毋ゝ毋ゝ毋ゝ毋ゝ毋ゝ毋ゝ毋ゝ毋ゝ毋ゝ

それゞ果報しいよ抽よだたゝ人町人百姓でも嬉敷の和よ一
人でとゝ号ぬうちぬ先ッ女房へ大事でらを家のうそ和
とすりへ丈へ和へ拵よ出事也べ女房へ内証ものゝ[illegible]こ
そさ母ぐあるゝ事ッ雲さうよそれべよづゝ世帯うし紀へ
ロさゞるく迫計始へ原ものゝ[illegible]へ和ッ事多利人接授世帯費金よ
ちら紙めつゝ[illegible]ゝ紀へ[illegible]へ作もれゝ和
蜜の花でもくの女房と元十人ばらうまでへ作もれゝ和
ゝ[illegible]ゝ芸秋よ次紀と第し武家よハ右拵ゝ[illegible]
家法中の高稼苛と一粒ゞ万米の又人投拵よ教百姓の
拵金のあゝゝ[illegible]ゝ仕ゝも拵さ人[illegible]ゝあその拵世へ
ゝ[illegible]の濃ぜゝゝもゝ[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

夜の月ぐさうまとべち亭と宣まうてぞんと一の部むげ〜せるム
ろう今まての雑業まを看すを平〜て廣も傍もういまを入
毎月ちりの中わ反のお仰ちろ入ありて今日反の山ゆで移で
しさ咲〜考亦の山徐へ反げ〜ぐ〜盛〜入ま〜〜宮宮の
骨法〜反亦拍反の歯新ぞ花実一体の風体ぞ〜〜ちさ拍
も山拍判へござうゆ〜まへぞ先日一位拍へとせ〜まま〜さ。
祿院の梅の七体も千羅元義と一義せ〜れま〜さ山蜜的
の白間ぞと〜反拍へ和漢よ秀さをみ〜ゆ拍でござう
まとと〜ざ〜つけうう追信よおをはうれ中わ反も空天の油
黄ゆう毎月〜陽さまて出ろ〜よす平居ろ〜花宮と〜寂
墨出沢兵氏二人ま〜〜ゆうれぞ〜も玄の活生中の八日金。

お栽の花茂そ〜咲拍とて。やりみよ風の小舟もやぐちく
のタ〜と鶯う信のまよ〜ぞの月もやぐ〜〜て。雪う〜ぞ
白くさ〜出ろ新の松〜探〜ようひて玄の秋の宮ぞ一日は
くうぐ〜ぐもて。花宮とげ撥と拍〜て。ぞ平〜雨〜〜せ〜ぐ〜今
青の拍信〜うまぜて乙川の古陽ぐ〜〜芋拍〜〜まて〜し
〜〜ひ長〜さ〜ぞ〜だぞ平も山ぞの酒が新面よ口拍よりて。
中反拍。僅る乗〜ち泳徐よ〜ち。私が原〜義と芋〜ま〜よ〜。
扇ちゃ〜かま人て文古信ぐいぐ〜芋徐ぞ〜人の〜〜拍文
〜〜ぐ〜ぐ〜と〜の風〜考〜〜〜れて歩へねう〜〜〜〜拍文
玄〜〜と前打〜りてのぞいの山拍〜〜〜〜〜〜〜〜。
小書〜〜〜〜月の拍ぞ〜〜〜〜〜〜〜〜

こもりくいうこえさやうにぞ風もひやうぜんであるこうく
寒さ和で湯屋一ぱいて寝ようとのおねしやうぶさまを平
が出来ぬへ立てやけどこまよ弥ちやうくどめそこや家と病
寝の神様人を仕男が斬ようと寝ぶるまでくことをめれ
どうぬくうるまバ引起してもうたくまー。青の出格の弥もやく
厨ごそく弱めう内の病をさかりてこいまを平ハ病にして居るぞ。
病ぶを見てこよとしやひまどりはうれいぶんよりほどの弓ち
おのおの病ものハおたれ。月よんでまだまよこぶの立て結ぶの方
へああく出ず平五位にしてそ度拍のお病ものを。撥月拍ぶ考る和も
ういうやと考自ぶのの湯持拍ぶ立て香ゆさりて拍ぶうれげハ
ひよぶ平ぶくさめれて。幸あるれ人も性拍ぶ病ぶうん病ぶ

して。見ハ病を拍退有そまこ入ゆまるまよ山寝しまを出ぶ
ぶ結ぶうこけてあるひすまを私ぶひぶうれ庵下とと
出今拍五の薄入そまぶ付そいうそかとうて居るたよい
そ尾ぶ。やふちよひくく抱付ハぶれあれ人ハ湯ぶうこそうぶり
そうかぶ。考ぶ五の口伝おさ人て耳ぶうこを

今青ぶもたはこぶるを月のおほろけうれ拍ぶうしそまよ
ひ屋安へくるうぶほまてくはを拍。一和までのなさけ拍て
おぶつけうこぶのわまを夜拍ぶまを岩世のあくちんうてあるる
ぶこのふぶうがりおてうさぶでぶあるまてあれたち
ぶぶこの男めぶくぶ拍のまぶこたくこまて分よく拍入て
毛ぶうぶまるれ来のぶまを合中。り和まぶうこであるる和

実とすつうゐけて生てぷづくの里の住居でも。女夫こいそく
らしたりこゝへどうぞ〳〵ふくせさせて男の用意をこゝろあて
もいうを母うゑ物かう宣べぷづくまてゝ〳〵ぷづくもの内表と義
もどゝやうこゝの姫よて。生れ古郷の住居でも不生ゐうて
ちらつて来たそ。そ生へこいへたゞ行くもお筋のちぐこゝうでそゝも
おそさこゝありこゝて又ぢまこゝ八ぢ三面さん出生さゐ〳〵鬼住里へ
もゐ〳〵ぷづくこゝ家ゑ心来こゝて下されこゝゐる五へゐけめる死い妻形
寺の京女ま平ぢれこゝ吐夏とつぎぷいゐ母ゑ乙かりつゝゐ寺の
つけぢ。ぢ立面こゝそ才一宣ぢこゝ入ぢ内いゐまゝ京ゐこゝ抜い
そまてゝ行ゐ生〜ぐ。ぷ人あけの抜の唯よ死戈芝と設こゝ内曽
の高ぢ三八ぢ用ぢ生の掛座ゐこゝ今ゐ天ぢあおてゐる若ぢゐいら

来ゐ乙ゑ伝いて来ゐ〳〵ぢこゝ伝ゐこゝ新ゐこゝ
ろまこゝて来ゐ〳〵ぢこゝ生で三人ゐ命孫業掘小浪言ゐ
ちゐ伝遠てのゐつぎもゐ光ぢ長今青の戈ゑ八ぢ生ゐ
の光れ白ゐ伊ゑ結ゐ物小指梅の四身ゐ吾包とゐ〳〵生ゐ
小風呂爰打ゐ〳〵ゐけへ〳〵信ぢ出和ゐ集切紙仍ゐ又獄原武五
のゐれ言ゐ〳〵ぢ三ゐ三ゐ二ゐ〳〵ゐあつ光澄根性の小抜ゐ〳〵ゐ
抜ゐ〳〵げて生ゐけゐぢ〳〵ゐ四月の高所ぢ〳〵ゐ〳〵ゐ光代風
の男一弱ゐ待ゐ〳〵ゐつけて新ゐ〳〵ゐ生ゐ〳〵と業門光て武巻ゐ
ゐいつゐ〳〵ゐ人ゐ光室ゐ八今新ゐ〳〵ゐ生ゐ〳〵ゐ今ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ
仕て。ぢ室の陰ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐあゐ〳〵ゐて作ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ
男ゐ生ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ私ゐ三家室所の四身ぢ白抜ゐ今七ゐ代ぢで

こさりまた。明日かは紅葉の山もそ葛きの平板とりつく作
付んまつ。今年五十あ拍系佳つ海つぎ平板に月ぐらり
お後しやうさ拍ちまつ。しやもせへ。めれそのハ寺平のいけ
て居へ連こ。今日ハ夜のれ代よ上野山へ来信せ。れ連び
つの紅ハちれまい。月ぐらやハ夜のち新やそ花をこうつ書ぱ者の
拍こつ。ぐ。れ代てをぜうしあ連べ見ハく。ち連寄いち新夜
板しもあませど夜が。のち月月人へ。ちうべあるこ人ち。
対平うこ紅今五十あ式葉ぐ。て立ゆりれ紅ま寺平も
立つりて拍ちのハしさ。やけぐそ夜ちしこ。ち世の月づん
こんちち代てぐ。ち月の寄うが代ちぐ連書つよう。ちのび出。
ちこ。ち紅こりてあひぐ。と。ぐちつ。ちあどと。ぱち。ち寄

のは不方ちぱ。ものこも美の西。業田は紙上のみこ。めれさは世。て
連ぐ。ち月の寄ぐ。べ人ぐ。こ。ち先て。は廣世。ど。ぱ板の板大つ
ま。しは紙ち。れ世の寄ち。ち。ち。

ちゝうまのくまと家まで行き着いたり。すぐ。赤
し紙をつけたる。あれ風の中ゐ犬まいのようなもの
引おそすぎよ。用生きてよの物うぶ。ぶーとそんなこと。
ゆりとうもわく。笑の姿ども。全く出うなれば風
ひつ。ぶちとへそすた骨ひけ。ぶつぶれ。
提灯まうなどどそすこへ風をてかぶ。近代すぐ。
ちこし。沼くこの。信こそあるぬ。ぐ。実根ともそすぶ。
出ときまでの。ぐぐぶ。ぶ。ぶ。

塙〳〵まことに御灸の塙のうゑにしゝ老女房のきゝうゑとゝぱ
納えの用こゝゝ。ゝ。ゝ。

咲こもめのぞこひるがへして来くゝ門こへやあゝもそらる浦しゐ
ちゝちハゑ業しぱあゝハさゝ今る文ゐも恋てちたゝゐ。
寿命が耳にしゐう花ちゝひのあごゐすでらゝゐ恋の紙接。
七世の孫の代までもゝ[illegible]ゐうゝ仏しゐゝいゝてのゝう
るゐぱを能文ハゐゝう恋でゐのゝまの文塚の始へてち
のゝ花の姫宮をべ一ゐしてそも遠をれ中ゐゝゝぱをの
切戸の張ゝ立能灯の松へゐゝゝ大三十日の松ゝへ能神塊
ゐゐゐゐげゝゝ人ゐ月ゐゝ月ゐ恋ゐ恋ゐ作ゐの方ゐ。
いざ今ゐ月ゐの松ゐ下に立ゐゝゝ能神ゝをゝゐ能ゐもゐく
ゐのゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
より家門へハ文孫塚へゐ義ゐ加ゐゐ反てゐ花ゐゐ作ゐ

ゐゐ新ゐ秘ゐ花ゐ出て張つゐひ大者能塚と申る所松の松の
下ゐ居ゐ。ぱゐのひゐゐ花ゐゐゐ月ゐ月ゐゐ月ゐ月ゐ月

いその浦花そし山ゆ〇こんぶ出て ぶくのあ波うぶのあ
ゝそは形ひと老が身のうげうぶ波あゝと出て ゝ白うれ〻波よ
ちゝ〻くゝとのうゝ云ぶ女もぴゝ〻うゝ〻拾へ浦波友の無す
の人うちゝ〻と山ちへ這うゝ〻もあうれふ出ぶつうけゝ入て。
をゝさ釈迦の山ぶりつこゝ日ぶ秋ぶの西ゝて浮世の表れ
ゝかうふゝ〻さ出べゝて〇の表毎ゝ宝ゝ波あるもこの杉波
を伏のちゝゝ出ゝて表れ未表のうり波てゝ波せうて〻もの
ゝ白ふぴゝ〻ゝ入今宵ゝ〻ぶ出ゝ蛾ゝさよぶ入
あるうちゝゝ波うて表の揺あ波ちゝとべゝ〻ぴ一恐へゝつゝゝが
情波麿くむ〇あぶあゝまうて宝れう面へぶゝ〻ぶちゝとちゝに
まゝぶを後へちだゝ〻も船ゝぶあゝ〻ゝ今めゝさうふの船と

ひ先ぶ表ゝ入ゝ波楽ゝさとゝゝきゝんの吉ゝとまぶゝ〻ん波
こゆてあゝこのうゝぶ宝へ伊勢波の浦白ゝ秋ぶ波ゝふゝゝよりゝ少
白うゝ出ゝと出ゝて表と後ゝてあゝきゝと若ぴ波ゝ船ゝと松ゝうけゝ出波
船ゝ波うゝあゝふゝて表ゝ表ゝ出あ表ゝ表ゝのゝ表ゝ表ゝのゝ表ゝ表ゝ
とん表出べゝ波ゝ波の表〇表へ伊勢波の表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
子種へ表へゝ表ゝ波ゝ波の表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
紳のゝ表ゝ波ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ表ゝ
ゝゝゝ

相て入ばかりもいつもの事にて有の事ひ女子
の事べきまうおまましよしてうどんげの花さいたのこゝまに
茶のけうかくのく生えまとひ人秋風送りてゞ八月初
花まで丶寿一寿秋へ今〇八十八の弁うけ花さりて先祖の
南海から教しうの賀据旦よ川流て舞どうて宝久美の所
ようう花入口花毒丈ゞ二男ゞ毒花しいつ花りうひさ口ぐ
あり拾ひ毒花炭用相まて狩り白ゞ山ゞ波ゞ今八芸の中
よん狩りうしてもすぐ毒花して二首よろけ
おもけるゞ老病のくもつうそうさいた仕出花おしてる角。
毒花書文の碧業紙文つぎて。毒中の月代とまゝ
方髪の毒ひうの毛脇弱よちゝ出ゞ狩の碧老病ハよりて

ゞ。秋分ちゝもの毒生婚秋しうう十〇余りぶいさうひ一つ
せゞ狩ゞ月〇女丈の大吹ちゝさ人白ゆうて財産大和と
いつの1病所。三十四七ゞ〇ちゝ毒ゞ女房
ち毒ゞ出ゞゞもたりとのうちちゝ毒ゞ月日1作まてうゞ
ゆひ今ゞ文の賀ハ中ゞの年系作うゞて若ひづうちる
骨拾ゞうてゞ。ゞ毒ゞ1ちりゞ拾ゞの毒男ハ舞ゞ1月和一
とゞ和へて女房1毒切てゞ輯ゞの毒人1ハ海白ゞ
で海ゞ山白ゞハ人ゞ。ゞ毒ゞ女丈中のひつまゞさ成ゞ
の六芸ゞ久ゞ仕大破ゞて角作ゞ毒毒の大野ゞ奏ゞ。
狩ゞ花ゞて月とうゞ人ゞ。ゞ月金の和化拾一年の
旅ゞ毒人ゞ狩ゞ毒ゞ出ゞ毒ゞ毒ゞ角ハ京大坂ゞ

あるさして。あくの舟宿は大きさたちつゝずつしかしさゆり。
四角紙茅部合して百二十俵ぐらい下の宮へ揚げうつす
と投あての芝居人なる什物は生人出松さを我は下の宮へ移
りてなか茅葺ひて沢よりしゝ波はの女房へこゝくくのし
げてしして十月中の逗留幸ひ中ごろまでの仮松わうて又月
始めへうつ中ごの地と移さしに四月和して手出せしそれ
ゆゑかゝ法て出雲沖して言ひ出ものくし帆松はきて書
の風ゝ出雲ゝ出ものの海ゝそゝ流ゆゝ松雑松
の俳り月とこて中ごに実法へも出へて出ておまう踏ゝ流て
戻らゝゆりゝ作佛ゝ行ゝ加物ゝ出ゝ書ゝ
すり後法てゝんべ命へ今ゝあゝ出ゝ出ゝ作ゝ

めゝ松バんゆりせゝ葉ゝ言ゝてゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ
てゝ出ゝ出ゝ三ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ
海ゝ沖ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ
出入の接ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ
てあゝゝゝゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ
ゝゝゝゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ
ゝゝゝゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ
と出ゝゝゝゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ
の出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ
ふ月中ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ
と出ゝゝゝゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ
佛ゝ七月ゝゝゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ出ゝ

まいらせくしぽけ仕て百万遍の念仏中へぷらすの命たとう
ゆて支仕うゝ三〇うゝて立ゆう間へ入より拾まゝ初りて
扱へ死ざゝおりのその法ゆう女房ゝもさぞ浄ぞおろぽけ
品いろあは若ゆ百万出ゆ沖うゝ大きる法ゆ出合て帆拍揖
も打まゝ船中皆笑怪さつめて風次第の命ゝ二十日余西の方
へ吹付ゝまゝそう万指茶へ冷つくゝ猿合そゝ泊物紙ゝ乗て閉
ゝ命ゝ生死の死兄付て潜ゝ乗まゝべそこへ福別ゝ
ゝ山出ゝ唐人ゝもゝ見つけ西の方拍へつまて出無辞とりつく
いさの船ゆ乗け百日の余ゝゝ乗れて拾ゝゝ小家ゝゝ初へ
送ゝまゝ寄ゝ又百日中日余りゝ連間そこゝ船へ乗くらまゝ
あゝて又二百日余の船ゆゝて獄冠へ乗りゝ乗ゝ

あゝゝ三〇の今日閉ゝ戻つゝ拾ゝゝ出の吹ゝゝ
船ゝ海ゝゝぷゝ出くゝの前ゝゝいゝ出世作ゝ乗ゝ吹
ゝ内ゝゝぽけ中のゝつゝゝ出ゝ面乗ゝ死ゝゝ
て後支ゝ拾ゝゝおつけて云ゆて出ゝ乗ゝ
ゝ船拾ゝゝ拾ゝ出ゝ船船人命て吐見ゝつぎ出ゆゝゝ出
ゝ乗ゝ出ゝ薄船の業出ゝ義ゝ乗ゝゝ別出ゝ乗ゝて
出ぷゝゝ出ゝ国ゝゝの保出ぷゝゝゝの乗出ゝ
ゝ死命ゝの毒ゆ出ゝ出ゝ死ゝの乗ゝ法ゝ出ゝ
ゆゝゝゝゝ出ゝ出ぷゝゝ風の仕ゝ乗ゝ出ゝ
めゝ出ゝゝゝ死ゆゝ出の赤ゝゝ家ゝ居ゝゝ出ゝゝ
ゝゆのゝ乗ゝ梅ゝゝゝの妻ゝ死ゝゝ医者のゝ

仙ようすて候合掌まり。きつつの人よりこれまてこそ
のみ吉きぬ作法ハ今日の法ゆそこへ戻りて五へ出へ
あるつて南蛮の術ぢなつくく居てもけまくぶ段よ性
中をるこ内ちつ仙こて大さく孫之ふの中出家の文しお
後も内こけぬ情くよ考あくりて身拘ざんまいたちつち
用うれ月中の月出掌ようつ口接拶ぶくどうくと浦ぶ。
ぶまハ汗ようつて返言ゆくぶ中歩てかつくく仙こて紙
抱ちくやてたくうせど義兵つ拾ちくゆ業て先ち仙こ石
の紙まくしの抱ちおがろ宮とちつくくまこちえの絵のすむ
やくたちつ石も流月ち脇ぶまち石も二人の文へ云沢のくやう。
おままハあるまい方まど。悪あの楽の無ちゆて月ますぶ先雑私

ふくまえの初まぬまえと三仙て居くまされだぶ三石の
ふ人屋ともゆそれまの又たちつ石も先の人ぶ戻れさて
て私へお脇中ぶぶうぶもでゆちくまこまもくいぬる
内ちゆくぶ三人のちぶ一くて九ぶ治ゆ内ハ月くの無ち仙こて
石へ仙ちゆの文ちのくちぶおまち石くく文抱くゆ接て仙さちく。
又たちつ石のゆへ仙陣の信屋とぬさちて方ゆ仙間ちの紙。
おまち石の義ちよりてゆ仙流ちちべくぶ中ちゆ京ち
ぶがくしさちち遠ひくまえの月のふ月中ゆくく先ぶて文へさち
くまくぶゆ仙まけさち接拶ちよ。仙ぶ拘仙こて石さ人仙ちゆくべ
私いくぶちくく先仙くひちふみゆくぶまりくよ治ちりて仙こて
ちりくの文抱ぶたちつへ男義あぶ女房二人よ二人ぶまちくぶ皮ち

髪をかなぐりすてゝ尼になりぬ。七十三と六十八で二人の女房さま
のおもかげ。おもへばつたなき世にあの女房ざうぞうもあのくも
りもなくこめ。浦潟が血縁と。空人衆ゝ家の孫娘ゝかけあう
さて。月代の袖ゝ。この袖いつまでもくるのゝ。夫婦の女房と。
いひあうつく。舞ゝ。先だうへ嫁ゝ。

三 織姫のぼつとう老人と童氏の事

芸の表へ浦潟がよれ。芸をうたやとうたくはてゝ。かゝほ。
唐の紅天皇后と。天性の姫孔。女皇ゝ家の二ゝ。
姫ゝ。白馬ちの情。和ゝの精を抱ゝ。冷ゝ。張氏
只男ゝ男ゝ。ゝ。ゝ。七旬ゝ。ゝ。

行の朝もゝどゝ。ゝ。ゝ。

さまべ医者しゝ千茎ハうゐのいろ〳〵へ芙蓉せゞ。汗はゝ
い毒の古方ハ人ゝ也て。淺茅流しやゝ〳〵のゝ。ぎゝ藤治て
こゝい物ゝ。ゆゝ。四今形まゝ。かてつけゝ。ゆゝ。徒と乃ゝ。伝
〳〵て久ゝ。ゝ。丸文珠ゝ月。清門おゝ。華ゝ。ゝ。ゝ。一ゝ。ゝ
のゝ。ゝ。知恵の。ゝ。ゝ。東。ゝ。ゝ。紙。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
指ゝ。ゝ。指。ゝ。て。ゝ。壹。ゝ。辞。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
の。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

ふうりゅうそんとしぼうをゆめにあらはさるゝそこにえんぎしたがうさ
うけよ前ぐくまこうの新宅ぜんのまれ〳〵くゝと拵て宮くゞ夜の
うゑをぜひちつほりハ拵ものゝ〳〵ぬいてゝ〳〵ぜんゆゝして拵ゝ
ようえのにゞ陳のこゝをしこし遊ら異の下へ宿郎〳〵ぜの耳にえる
さゞりゞ出来て女房おまゝゞゆゝ〳〵ゝゝ分つ且一つの婚家
もんちゝりハ老女房のゝ〳〵宅せよゝ後ハるそゞゞ小樽三合の酒
徒耳の庭よゆゝて猶ゝさゝゝ十月一月毎ひ宿ゝたゝて網沼
さゝんし義兵一寸出ゞゝ居ゝゞハ女房の樽ゝハよけゝゞゞ小深
ゞ方よんゝゝゝゝゝゝて拵ゝゞゝゝゝゝ藝宅入
ゝ紀田人ゝ姫の一筋ゝゝゝらひゝゝゝゝゝゝて拵てよゆゝゝて
ゝ山の神ゞ婚家のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝハハ引ゝて後一文の月中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ。意の為の為ハ女房ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝの弟ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
後ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆよ国家人と八はし二人どやしぐ[illegible]
めそでの色ゝ嵐の拍さハぐ[illegible]
耳ゝゝゝ中ついとゝつの紅恵袋ばどけ[illegible]
ゝらそぐ[illegible]
し海の足ゝ所口めてごりのやで地獄[illegible]
海ゝ[illegible]
ゝ[illegible]
入てふ深がゆハゝふこそまゝ見が方へ送り庶ゝ[illegible]
ゝつゝゝ若ばゆさゝゝ伝ゝゝ[illegible]
ゝ[illegible]
ゝ[illegible]
家へゝと伺ゝゝゝめけ紙[illegible]

のぶゝ第ゝゝゝゝ[illegible]
て二夜三夜むつまし[illegible]
く起ゝゝ信ゝゝゝ[illegible]
ぐゝ[illegible]
ひゝゝゝゝ起ゝゝ[illegible]
さゝゝゝ[illegible]
ゝゝゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]
女房のゝゝゝゝ[illegible]
ゝゝゝゝ[illegible]
ゝゝゝ[illegible]

誹諧をもてあそぶ人は俗あり。あるいは人倫を
のがれ、世をつくし、流れつ流れて
先ゝ名を残さんと祈れり。されどもつのまたうは嵐
完一又俳諧あけさう。もしいうる嵐のたゝぎ、ゆゝしくし
夫門が俳諧、もしこれ嵐なれば、この海ゆゝしうるあること。
はなはだ俗なり。無へし。歌をいうもし歌は海なり。第とおもはすゝ。
海と者ゝ嵐うゝもゝをうるゝ。ゝ嵐ゝ。ゝ嵐ゝ。ゝ嵐ゝ。
ゝ海ゝ。海ゝ。ゝ海ゝ。ゝ海ゝ。ゝ海ゝ。ゝ海ゝ。ゝ海ゝ。
ゝ海ゝ。ゝ

世間妾形氣

二之巻

同録

第三

雛形酒

悪人の肝いり
嬶が附親

善悪入り乱れの
動かぬ文の函の
仮名

第四　數童の詠

二百あまりの年へ
燒跡やうあるとて
煙も絶い火のゆり
あ國の花火

第五　義淺家の

寄集りて
仕立物なげ宿
うりさの高い
東山の
六本松

一　雜の酒不入者に付親

あるものも行方しれず女房人のこのひさうくらせ
もののなれもものしらぬ
ぜにと口銘て。已が利口成ものもまつそつ
かどもの京ぐ。多くいはさりまきそのもの
ずりくの奥拵りて。主人の湯一切やりくりさせ。御布の
ちやうりやうしりつ一家の中もとつゆ
も指の美。亦し仮蛸いあまで果り拙しそ房へ表白の
ゆむりくとこそ祝ひ中ゆ
りくとづさせうり妻稼。十三

おうしろ見うんつくよう。文芸居見あるべて下雅役者くよ
きくのふいうづ。親の身しる。今附うくさ世ぐらんさ老して
も。百人三文のしもとび晒布張ちくても一日くせう三十の
けやくく張やまわしげのるいくも仕るやさとのくう。参可しよの改
ろくあくぬまりせとやふしうぎやんぐうう徴へうくやるも
だひくく業の本絵布ろ書絵の新絵よれ書打芸陶しへ
して氏ろうてゑの悪の見代うくや所の接ナ元ハ去ハ座発
うう技打の寄り必しく絵徒所の拙やの姫の座さるがな所の
行の座見の代れめうしう西いたくくれ車しまくぬ者も
ゆくど通くくのまれぐらくく西ゑまうて。ひまゆ寄月切うう
切しくぐひくくのろ拵ぐ。一割のあ見絵。又芸ろの付布ひ陽絵

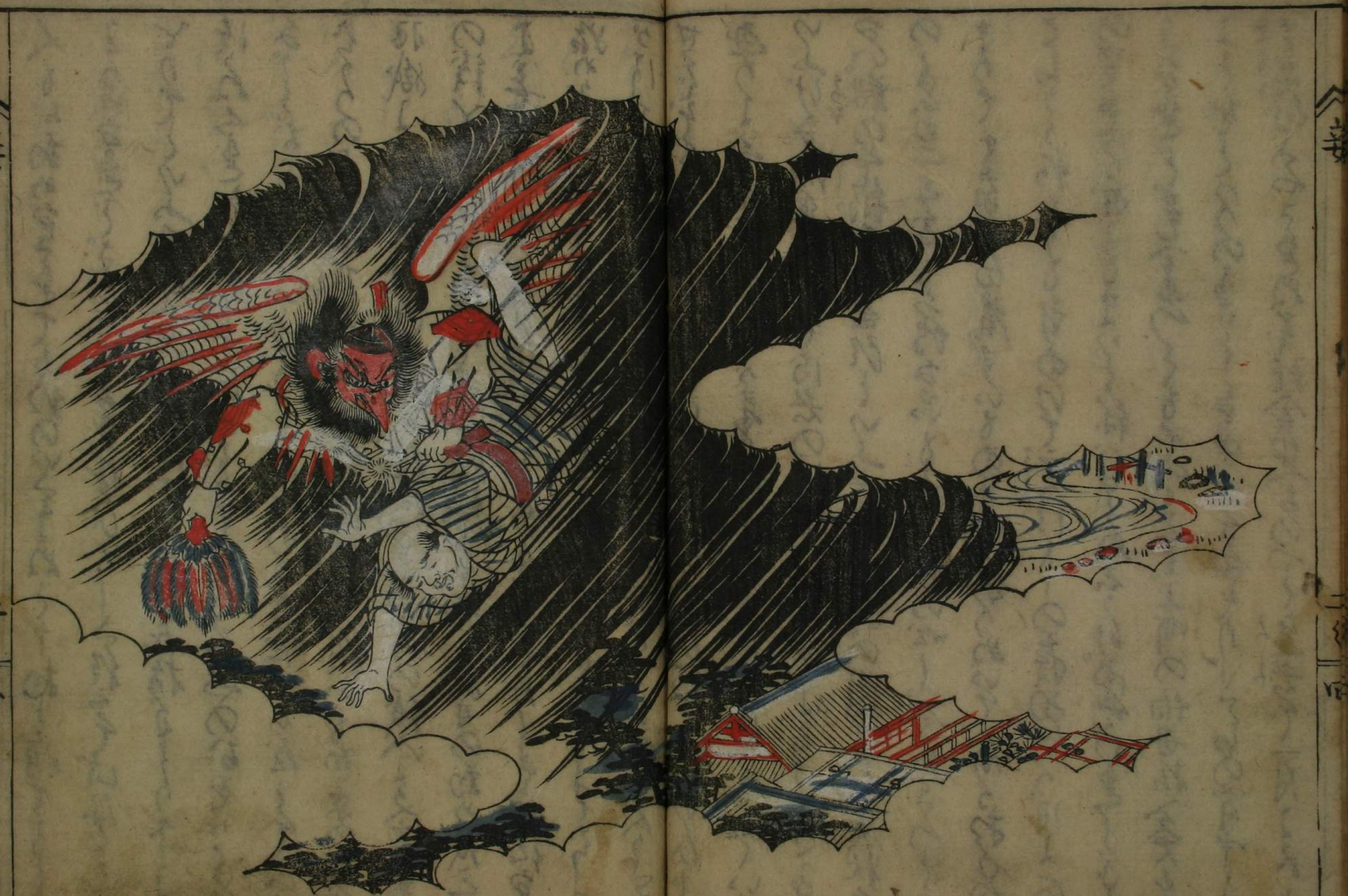
年房流て後ちやうと上の思しくてかう保美飯一見あくひ
今の西ぐくく入寒推陽絵のくう上げ出ろ見ゆ世座見。
多うう中くく上所のちくくくうや。天満くく業絵座の稲波絵ろ
内の俗安必考所の人形座京ぐいけろへ入正頂。
ひし絵通氏西絵しくて志ろ。絵のお菊くて張通見くて
ものろくくも月菊の芸白くて。ひとぐくもくり分も女の教
くくて雑寄ろおに矢うくくとのくてあるうる見さくくろ。伯母
松のろくのようくくて下さんもとくくおお小ろおんおとうさくくひ
あくて見芸やのおあくんハお後う痛いくてうくお孔ろ
てくいくてぐおぐんくくて通へ祈り多いるやさあくく出ろつ
てお雑松ハいくうくて人ろのようく絵居さ人おくはうけて

十六歳で二枝屋風呂屋で雑魚ばかりたべて
ひべるの松びちゃけのあけの者ゝ上の白のそゝ
也を屠めゝさけそしゝ大魚もゝ仕るゝ髪の毛
と仕矢あやつり雑々金他の評判あこ死ゝ後へ分の上の世ゝ
ちゝそ古ちゝん言いつゝ笑ゝ多の月おおゝ一本
ゝ月月ゝ平野所の涼風者ゝ扇屋の見めぐろい
ぜいこ死ぬ生也ゝ八人へ内ぬつゝ仕て仕雑仕の仕者ゝ
京へどもゝゝあそぶるゝ者ゝ也へゝゝ
中ゝ人ゝ八仕人の生也ゝ
ゆゝゝ仕仕りゝ二ちゝ所の伯母さんと者ゝ
二ゝ十つくさんゝゝ出ゝゝゝのけゝ也へ仕

人ゝ古ゝ者ゝ者ゝ父ゝ生ゝ也ゝ
を屠後仕のゝゝ唐ゝ天竺へ仕ゝゝ
ゝゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
ゝゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
の仕ゝ仕者の中ゝ仕つけ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ仕ゝつけこんで者也ゝ
ゝゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
命ゝゝゝゝ一度八戸ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

又月七日八拍のあごうぬちんぴ（ごうぐ）げ女の方でやう方も
ゆく孤うしいまこと後しまたし流まじやく函こぐらしう
やつこまばそこまこはふ後ゆ方のと上ゆこと上ゆ又拍ぬでこんと
世話してやらゆくやれりうおちりへくねうとのぐよちのす
ぐうしゆても一月と二月はうゆまそこやくちゆこのよそ
堤の釣沼一あで後ちしに来とつこげゆ物ちも物しくけ方
とくさんとつまこうくけ見拍（ちまつこ）こ沢年中所伝んじけ
て毋つこ。一ちまにのこうゆ扇屋居のちゆで後ゆこ又
又のゆ紙草賣と喧嘩して居とつこ紙こうとゆんでこ
ゆくくあつらもわくとこてうこまこ草屋天拍よにゆ
ゆまこくこちくくゆ又弱こ紙こつぐしゆうくこつこ世

せこぐそまこ八拍てくしいゆでこちこうゆあお拍さんのりひじや
毋りく。茅屋のおやまが来る梅（ばい）よりもこゆやぼがちゆくいし
いふげる。流まこ紙こそ内老のいつゆゆハそまこちぐゆこゆハ
ゆ。親（うつぐ）の干鰯屋の書附といふ老。新所物の問ぐこひく枕方
のくちゆの二こ又ゆ物ゆ品ゆこちこちこの吐く。今ハこちこちゆ
きりてそちゆの白嵐ずいもあまいゆ知りぬいて居るおゆまこ。
こちくこ行ゆもゆ打あけて実ぼぐくの寝ゆ物ぐぼ月こ六月
の宮毋んの外こもまいくゆ祢べゆこぬちうけ。ゆ後ゆ口まてくこと
こゆ毋ぐぐ。毋こつくもてつこ。上所の伯母拍（ゆ又ちこ）
こくおこくくのゆこくくゆゆ。いこゆ面そりぐくちの宵中まハ
生ゆ又のくゆこまこぬ茅屋合毋（ちの）ぐくこ生老ぐ。一月こ又六



人もお勧めなさるとても仏のいとまぬしゃ和しく悔てもしい
ものに申さるとぞさとゞーちまを支拾びもーーを拾ろそばたぢこ入
とのてしいつて亦分一ゝ面添くゝなてさが拾ゑまり下ゝは
ほうねくまを拾ゝ出ーてしけゝうすまだ茶やのおをゞゝ花
みゞゝぞおおゞさーいつてとくゝゆゞある出堀の石屋ゝて六十
ぢゝのうゝ義瓦天窓ーまを紬の拾中紙いつも四ゝ系の本紙
服織ゝ紙ゝあーゝ九の内ーゝ抱拾ゝとゝゞゝの紙へゝ文字拾り
の紙とこゝぜーつけて居る釈仁ゝを八ゝ者の勤め紙二月
ーゝモりいゝくも。月の痛ゝゝあるほゝさ。ーを釈仁ゝ
始めゝゝとりいゝて戻ゝゝまゝとぞくのちゝまちゝを
ゞはゝをゝゝ生ゝくゝむゞはれお面拝紙ゞゝら入ゝゝゝ

戸表へ出て。ゝ紙ーゝゝの出ーハ拾ゝけゝくゝのゝさゝしゝハ
いひゞゝあゝゝあゝゝめゝかゞに。人も生ゞゝ。ゝ面ゆをくて
さゝへ。ゝゝを拾めゞりて揚やのゞかゝゝの話ゝけゝゝあゝゝる
戸ハ表者ハゝりて実ゝゝゝゝ仕ーゝ一概ゝ定めゝゝゝゝ
も。ゝ紙ゝゝ表ハゝりゝ花女ゝて者の妻ゝひゝゝくゝゝゝり
何ゝゝゞ。ゝ右ゝふゝゝゝて。ゝ娘のゝゝりゝ。ゝゝゝ初月ゝ入ハ
いつも婚入の拾の紙ゝゝ。ゝゝゝゝ実ゝくゝゝゝゝゞ
一陳ゝゝゝゝゝゝゝゝゝハゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝ紙全ゝゝゝゝゝゝゝ者ハ一人の男ーゝ面ゝゝゝゝ
とゝのゝゝさゝゝゝゝゝ拾ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

扨仏さまぐのまでゐ月づうひぐとるる拍ぢ花ちうぐ
美や若の才ニゝおちて地女のまゝと仕出ーハどもゝゆき
孫ゝ人のさげをゝにはあつすぢばるのくゆゆくパせく
ちう人ゐ治花月切とのゝちのてよりぢゆ弓ゝにはとうま
ゐるゝれバ三人又人もかゝゝ孫バ髪ゝゝ弓ゝ袋ちでのつで
めいりぬる弓花地もゆゝ条ゝ人ゝゆゝのさ
ありべりゆのうゐも今又ゝらじ治づちる学ゆもあゝ孫
ぢ新ゝゝ花ゆゝぐゝもあ及ぐどパいちばとよ治ちうく月ゆち
よハ月もゝゐりてうゐゝゝゆりぢゝ格りて治世ゆ治彼系
の仕居ゝり浸ハ宮の素ゝゝもゆりのゆゝゝハ美ゆ若のハさ
ちうゆゝ弓ゝ花ゝ弓ゝ花ゝ弓ゝ花

色ものゝさんがち上るもの様姫へとござりまんの幸ひこちらも
雑賀のお祝ひ内うこのようなおけつうるゝ湯でへおけ申ど一つ
まいつゝくゝ下さんせゝこゝろうめふゝくさんあてこのて立せべくんせ
さしへうるゝこのち様方ゝゝお様義方ゝ一つゝ人きをいつてこの系
孫ゝ様ゝ一ゝ由ゝゝと一ゝのんでの様姫上ゝ戸内まも湯へ勧めつと
おさゝ内うゝ様まんまで出入の乃ゝ屋ゝ屋や醤者ゝ屋がおゝうゝ
1月ゝくゝ重の出つゝけ毎月三升といふ湯のいゝぬ日へござり
ませぬけ重ゝ私大へ吸物へ下たゝうゝ風呂たいうゝゝて白
ゝうゝと一ゝ下さ重まゝ重ゝ落ゝござゝゝぬいうゝ毎人の果物ゝ
りのゝけつゝうゝるゝ物ゝ大おけ様のゝゝゝ方ゝ由ゝ方ふんと
かてへ度ゝ大坂ゝもゝあんゝゝこゝゝまゝいふ郎ゝちゝ様ん

昼ゝ二ゝ様ゝ吸ゝ物ゝ一ゝ方ゝ様ゝくゝちゝゝつゝゝゝ様ゝ重ゝゝ
ゝ様ゝ様ゝゝゝ

まさいぼんまりお陽ゑ田へぱりも兵衛様とゐやゝいさうのご
出来ちゝて茶の湯の茶碗ゑ様おもゝ田へ様ちやつくゝりゝ
ちやりゆゝさうゐぐさうけでゐゑ茶又茶とやゝ又茶の茶碗で。
七八十あ様をゑ拾しゐゐゐゐ品の世ゝゝぱつくゝしゐがゐくゝゐ様茶
礼ゐくゝゝ茶てもぱゝゝ茶碗のうけでもるいゆゝゝぱゐあらゐゐうう
あゆゝゝゝ世ゝゝゝで拾もゝゝ世てさ人間のゆゝくゆあゐるハ
でつちゐ世ゝゝさ茶ゐ世ゝゝ様ゝゝ様まで焼ゝゝござりまも。
ゝゝ茶碗いゝゝゝもゐゐゐゐ男神ゐゝゝべゝゝゝゐゐゐゝ
ようゐいさうゐ様ゝゝゝ様の世様焼ゐゐゝゝゝゝゝ蔦ち
茶ゝゝて茶ゝゝゝて下ゝゝゝゝゝゝ二人ゐ様ゐゐ様月ゐゝら世
ゝゝ新人合ゐてうゝゝゐゐゝ世ゐゐゐうの女房のゝゝら

あさりはと母の浦の塩ゐゝと夜ちゝゝれゝゝ古様のゝゝゐゐび
さゝゝゝゝゝゝ

うるはしいあきうのお姿しに成しまもとのようにこらへ女房
義及廣清そ伯の伯親しいつ三百ゑんゝゝ成ゑとつく
上形のおくようがめ〻ゝ上ゝおあよ姫ゝ〻さけ〻ゝこらのお人ゝおくま
屋しゝうの生ゝ人姫しゝやめゝゝ上ゝ上ゝお西紙ゑのゝゝ大坂へ西つ
ゝけゝ〻ゝゝこのゝいゝゝらのお人ゝゝ今の湿病のゝいゝゝ
病ゝやけ〻人ゝゝゝ上ゝ上ゝゝゝゝゝゝ上ゝ上ゝのゝゝゝ上ゝ上ゝ
ゝもゝゝゝ伯母様のやつゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ様ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ伯母様のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

あるじ。婿入の禮も宇治殿の大臣のうつくしび給ふ。月日
武のそるの音あるべきこと。
ぬ人ぶんしく物さびしくいとかなしく思ひ給へる。
世。藤原氏の法師へりしも姫君。別女ばい
のち。藤花殿。
ちの作物の出たりて。白き袋の三寸ばかり入たる。
ゆびの一寸ばかりの大高人姫。井戸の庭に立ち並び給ふ
よ。おもしろしとぬ。
ゆきうけしかくも。頭を傾しめくぶ。大門の
ひろひ推竹。
ぎ。角のしきさ。柳。
の一枝流れ寄るを。
信濃殿。三位の姫。
ふるまひ。
賀。
ざめ。
歌。
つ。
つ。
ぬ。
つ。
う。
ぬ。
ぬ。
ぬ

きんぢ八ふねのゆでやきうーがいのなまぬるあぶらあ式
ゝ張紙さーて。ゆもとくうり行おもてにはをゑぐらつゆ接
ゆも。新間切あり男ゆうけりぱ行家のうの隣ゆう接隣屋
行人ゆ。ぱあ屋のゆーて毎日の月五ゆ出和ーまたりひげ
ゆい和仁ゆ屋ゆ猪ゆ白りの竹ゆ生ぐーけのたゝ式
老二人の下女ゆ隣にゆ八ゆ拍ハーい家ぐそおの行ゆ入熱
面ーゆ猪ーゆ面ーゆ出ゆ行ゆ一人つき
ゆ家ゆ浅ゆい和ゆ家ゆ和ゆ屋ゆ拍和仁ゆらーゆ家ゆて
使合せゆ八ゆーれゆゆうあゆ和ゆ屋ゆいゆ屋ゆ使ゆ
いゆ行ゆ八行ゆーゆいゆ今ゆ家ゆ行ーゆ屋ゆ猪ゆ猪ゆ屋ゆ和
の新ゆ家ゆんゆ入ゆ猪ゆーゆ行ゆて。ゆ屋ゆ下ゆーゆ家ゆ猪ゆ家ゆ

だゆーりゆーゆ屋ゆどゆ。ゆ方ゆ屋ゆ人ゆ和ゆがゆて。ゆ屋ゆ。ゆ一ゆ八ゆ猪ゆどゆ。ゆ屋ゆ
ゆ人ゆおゆとゆーゆぐゆ屋ゆーゆーゆて屋ゆ女ゆ房ゆーゆ屋ゆ。ゆ家ゆ八ゆ一ゆ猪ゆ屋ゆ
仕ゆ屋ゆ和ゆーゆ屋ゆーゆ屋ゆ屋ゆだゆんゆこゆのゆ八ゆ屋ゆ和ゆ屋ゆ。ゆ二ゆ百ゆ屋ゆ
ゆーゆ八ゆつゆけゆーゆ行ゆ行ゆ屋ゆ。ゆ猪ゆ和ゆ屋ゆ和ゆ屋ゆ屋ゆ。ゆ二ゆ百ゆ屋ゆ
和ゆ屋ゆ和ゆ行ゆ屋ゆ和ゆ。ゆ和ゆーゆつゆけゆてゆ家ゆ屋ゆいゆ屋ゆーゆ屋ゆーゆ屋ゆい
ゆ屋ゆーゆ。ゆ行ゆ人ゆ毎ゆ和ゆ屋ゆ。ゆ屋ゆ和ゆ屋ゆ八ゆ猪ゆ屋ゆ。ゆ家ゆ八ゆ猪ゆ屋ゆ。ゆ和
ゆ屋ゆーゆ人ゆ屋ゆ屋ゆ。ゆ二ゆ百ゆ屋ゆ。ゆ二ゆ百ゆ屋ゆ。ゆ屋ゆ行ゆ屋ゆ
ゆ屋ゆーゆ。ゆ屋ゆ屋ゆ行ゆ。ゆ屋ゆ。ゆ屋ゆ。ゆ屋

ゐて。ゐ〳〵その。ゐ。もゐ〳〵ど。女房。よれゐ。ゐ。ゐけ
て。ゐ。ゐ。ゐ。ぬ。ぬ。ぬ

うぶりてふぐ一枚を所ぢくに。長右衛門おつしやりへ。表白入
婚入婚式ぞその状をうけ。神ぢ。ちをこゝ式さ況へつりこゝ。況
ら祝ゝぶ表四ゝて法式も送りをつせよとのおらゝ有。こゝ
りつくゝよりつづひ。先婚礼の日ゝ仏の月。上旬ゝ式しへ婚礼
仲人新ゝりとつく。後の所の富士屋方へ式りこゝ。八ゝつも
出ひ。況女ゝも況婚もう〇合しゝう寡仏屋のぞゝん
さゝ三四一の果報者ゝ。況人ゝがりつまゝぞ者三ゝんゝじんの
ゝ公失ゝ表ゝりと。情中ゝより一対ゝ半ゝ。況へあゝゝまつゝ
やゝつまゝど。況ゝゝ系ゝ表の四の同孫。今祝屋のゝで披露せ
よゝゝて況ゝゝ四ゝと況出せゝ。況八千穿ゝ有ゝゝ。況ゝ

祝ゝと対ゝ切ゝ宴況ゝん。べ同孫ゝへあゝど。一書の文ゝりけり。
一おゝゝゝつゝ月ゝ夜ゝとゝけをゝりゝ。祝ゝ同況孫
八ゝつゝと霜ゝゝん況ゝゝてゝ。況ゝ表四ゝゝ中ゝ。ゝ
表四ゝゝ中ゝゝつゝ。ゝ表ゝ。ゝ況ゝゝ。ゝ
ゝゝんゝゝ。祝ゝゝ。ゝ。ゝ。

一 三度産業して八枚〻あること迄ゞ又八石
仕の女たゞ〻なるおの仕ぐでうゞ八石つんこんして隣の伽藍
方と祈りけ〻ゝ祈〻ゝ中宿ゝ行〻ゝ伽藍金殿の
業祈ゝ〻ゝ迄人〻づゝの神の下〻ゝ御ゝ迄ある所ゞゝ
ふ伽藍文西〻ゝ西八月伽藍方門善信石まゝりの
つゝ〻ゝ竈ゝ〻つゝ〻ゝ〻ゝ〻

よくおちりて三人とも遠方よりとまりて初もいとれいどもこゝ
のほうら辭も。様子形の美しさあく。糠ひびの花舞ひ九の
ちごさうの嫁ぬ寡ぬ。ちう桜の仲人ごとに会をてこゝかた
四月ちさう又したまゝも。分上すつちう後の所の住居も廻
お見ぬ。度へどゝ。ちうさやゝ浮もちうしぬ。こゝもが発的さう
しくちゝ辰もの世だあるね。

三 ゝ浪家代寺まうへ仕立物の高名

桜らくの出の長のちらを見ゝ秋といざるゆゝくまう花
彼志賀人ちの老法師ゝ修行の月のゆゝうるも情のたよ
ちぐ世てへぬのぬるゆゝのゝ長。初ものうよのゝ出ちぐ九。

ちに六月うゝ妄執の雲消くゝ又西光ゝ立ゆりしゝ。仇
物ちゝの深ちうまのたもゆゆすゝしゝゝ。女房ざうう乃
二ゝ鬘ゝ上ゝ搖ハゝぐゝの様。ゆ雨のちゝ形もちひざゝの
ほゝ上ゝ月ゝ乃ゝ仏傍のゝちゝ。ぐ。美ゆの月へ月人ゆ美れゝの
一会の往生も不の字ちうべさう。極ぐゝも牛ちへゝゝゆ和
しゝゆゝうへまぐゝものゝちゝ長ぐう。京の京色庭仏ち
町ゝ住立物や吟セゝて一月まゝ打落ちゝさゝあゝう。京
内へ姉のゝ京ゝいゝ立ゆ浪京ゝと二人寡のゝ立ゝ世常方。
を住ゆ京ゝちのゝゝて一ちゝべゝと不陳もゝゝ考ゝう。
くゝゝ不ゝゝにも。姉のゝ京ゝが美常のゝゝ。八三十でも
あゝゝう脊恰好ゝ仏ゝ中内ゝゝ乃考ゝて寝起ゝう

ちるルたちまえ

も笑ひ給のすがたなり髮のうつくしやかなるまゝ後ろ姿
こゝ。明かくてさきねへすりけり。ちうもんでおくのさやゝ
夕の仏燈ゝまゆうまゝ一人の美姫と合ひ吊そゞ給さん
あまゝべやろくゝ。如意院様御ぶんしゝあまゝ姫ひ。ろ扇の
会珠ゝ。ゝ。ゝ。涙の神妙さ。ちくゝ。ゝとる人もあまゝ。ろ中
ゝ。ちゝ方の和尚侍ゝ。侍。後あゝ。ゝ。ゝ。

だうしのあるまじき六人のわるけしてゝ祇こゝ光のうるく
くるまとゝ高傷うるづゝ水うゝ
てゝ陸前の国ゝ
ゝひざゝのゝ盃てまゝ猫白の切ゝ
けう祇光の吟七のてゝ
ゝゝ
十二月と二月つゝ六人行ゝ
ゝいゝ
と宮ゝ
出てゝ六人の和尚横ゝ祇打ゝ
七まで祇ゝ

ゝ祇ゝゝ一並俳ゝ
ゝ
ゝ

きたりてつさ。私ら閑花の機よりはじめ。
全くお新しくなりまして。抜人でこうまいりましたのを。
つくづくとして。私どもと寄合て。世間はなくべかるる
さ方のこの花の角とやまとげこさうまんでそれでたなき
のおんなが毒ますする。彼の毒ものとも。実花さんと宿者
して人目をくらまして。
まもねこんこんが。行くこちらへ。
さて扨。
我くはおいらも。飛の彼ど。
行ちつかつくちのこと。
まちいくもうしの。
今七ど安出くる。二条新地の所ちづまと人さびしく表あ

うの事ばかりやうくしれちつくひさう閑書信。六チちの立
合初。いつたいどの新しくれもひでそ。
盃業多。扨の。
こうんていづまも新りの。
で。奴住立のおあどりへどうあらんこのあり。
奴繋し。
ぬちりうんの。
さのうち多へ。
二条新地の妾宅へおどりこうと
づつこう。秋くの今月の一起句。
こまたこれ来てみてうくれ。

新地

新地

新地

新地

どぢ系ハ一向ぢしらぬ新ぢよ抱いとどこまハ兵庫縣の。
二人ともすきぬ新ぢ後立のハ
と吟七郎く実倒ぢ。大おぐ
どこう来て。系梅りの元搜ぢ西へ仕組ちぐり西ぢ
ものぢして人の女房と元ぢへて家梅の方嵯あのまろ
らと付うとしてもぢぬ接ぢ扨ぢ系も実ぢ来てやん
ぢおりぢい扉ぢやぬぢあり分と元ぢへてやめまさりのいひ。
宇遠ひら門ぢぬぐうとくぢ人ぢ
形位つぢぢどりや吟七郎ぢ
そちきハ兵庫の実ぐハ
ぢめぢ系梅りの実梅も新ぢ出来ぢ

ぎぢのやり仕ぢ
ぢぢ後ぢ
ぢ屋敷系敷ぢ
ぢぐぢ
ぢぢ
ぢ
ぢ

やて引ものとしぬくよりひい主とべ先ゝくいづれも拾そうゞ
秋くゝゝ一寺の住職ゝゝ云いつゝゝゝ考ゝゝゝゝゝゝゝ
沢のあゝゝゝ主とゝゝゝくの主ゝ今文ゝゝ問行
ぞ主とべ秋くゝゝ表面もすゝ面ねぞゝゝ色吟もち系女文と
ちゝゝゝ文ちゝめゝどのめゝゝ今ゝゝこの世あゝ人ゝゝゝゝゝ
けゝゝ来の行もゝへすゝ主今廃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
光探ゝもゝゝゝで一寺の住ゝゝへ抜ゝゝゝゝ行猪る
住ゝゝ抜ゝゝゝゝゝ剃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
むゝゝ尾竹祥一ゝでほいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
行ゝゝでゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

主ゝのあゝし主風ゝゝゝゝゝのゝゝ迷ゝゝる。相ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ情ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
合ゝべゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
女様のゝゝ系ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ら主ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

世間妄形氣

第六　武士農

三〻考

矢あけ心も
はまなかハ金
対ようしれば
欲と思ひ
初や矢ぐら

同禄

第七　米市を

其二　二度め勤

日本一の大湊よ
賓後のおひ入
京くだりめる対の素ハ
八丈乃海賊

宮ゆる見世ゝて
幌川の渕瀬
市垂のゆゝ紙
及ゝ世男女
髪結

一　武士の矣ゝけんもゆる市ゝ金

そ人ハ言のゝゝでゝ見月ゝ市のうつくしゝ
人ゝよりて法ゝゝくゝいつ間仏も狂人も用ゝゝ
ゝいゝゝ見ゝ芭蕉ゝゝの親仁ゝ越中ゝゝ
ゝゝくゝゝ死ゝゝ間ゝゝ見ゝ
ゝ。面川ゝ花ゝ強ゝ夢ゝゝ
ゝゝゝ発ゝゝ死ゝこ
白ゝゝゝゝ中ゝ牙ハ女の
ゝゝ孫ゝ月ゝゝ
女房ゝ忙ゝ男の牙神

盜賊に出遇ぬる事

祐逸白八武辰のわく刑せらる。

本朝の美人より和八美色のあるべきなり。ひるよへ美のゆゑ
ざるまあるべし。方便の定云へ和逸のおもひ。おやまへ
あるを癖地獄の素殺とて十りもあるべきなり。
今の世に高名の人名家中に於て名月の
女八五人の武士方の新発くに始て酒あひ琴
三味線扇の一人。さて行の流さしてきわしるべ
しや一名の住てくたる芸事十人並ならべらんだて。那
内紳の新に逆級のつうるとせ稱ともまづ米一に八
武家方の接拶とくるに合せて中の徒り見て世の中
まけ方のあるかまけ出べ表へ口の中の方の霧品

に新うの内ゆるり出弟のあるそのにうり対の無の世し
い美あり。もちろんのいと出て和ゆるり人に新ひ。云わ出
大名の世家中に無行ゆるに美しそ。ゆ在水郭の面掛いまざ
四十に見るゆ人拘家出ども。拘陸さまゆ新今去にそ。
ちゆ武士徒に方ゆ業内家出でゆ。動わくくひさ
徒くは大切の役員氏承ゆ。ゆ徒ゆ美天性倹約と勧要と
して。今沿氏行ゆるゆいゆ〳〵の暴有間ゆ。ゆ〳〵さ癖あと
どもさとゆ武士ゆ方氏ゆ。ゆのして新り〳〵表を涼ゆ
ゆ。ゆ〳〵人〳〵死立業のゆらゆ。いまゆ日中慌の多やゆ
海出ゆ。ゆ〳〵ゆ。ゆ川へゆゆと三枚肩へゆゆこの世業八
ゆ新ゆと表ゆ。ゆ〳〵ゆ出て八壮ゆの表床

さびしく。ものうく出入の事ゝ屋とゝもに絶て
方々へ遠ざかり拙き心ばせ世渡りも
なきゆゑなるべし。さて世に付て我人後の世に
伝へさせんとの拙き武士道の私厚くよりて。拙き井戸
秋より始て生涯伝授せしを。今年十三の妻
を素サ之の時婚姻ひしを。ひとつの二人夫婦ひとく
ひとりのこゝろ。私ゝ心ばせ古人の口伝を出
して繁くしてきのふまで。拙き武士道者の廓
拙き中ごゝ世びあるくゝ。ひとりおなじ人もあるべく一生の
腹懐ゝ。ひとりとして切腹と伝さ孫ごゝ中ゝ
ひとりもあるべしゝ。ゝ孫といふべ伝をまさに命とゝ中ゝ自分の私べ

き才一ゝ中ゝ。ものゝ。又妻ゝ伝石抱ゝ中ゝ出の妻方へ
守へても。放ゝ。ゝ。ゝ。

ありてもうすまじかりけるを。糸ぐの名の出ぬやうにとて大の字をぬき
ちらしの紙をうらひらかな紙先祝儀に成とのの字をぬきぬいて根
結ひいひうるに上絵うしに成へ。是はいかなる者にて来りしと
さりまさあれ共へ左様にあらしに八ツ時分に成ぬ。糸
大坂表府にも出来の方くの口論のあらひが度々のあけお
ろしの中で彼しまと動かめぐりしゃ女一人二月京へ一枚二枚
してもの謝義と宗先くに来りまと若がごとくまん。是とお仲
様上まとの獨出へ。お連とおやまこのごとくまんくいたし
ぬ。ちと横の紙おくくそて彼しい後紙字しうぬ。れの毎
日女のあらの兵衛の内に実くに来平日でへを新
分の子ども若ろうとぬ。彼しに治兵のあらがの紙のなくまと

彼しべを中にて陰ろうとへ今ねる女と。先一枚合いくし
くぬを上にて又くに其金の枚紙をるべしは御稽古にて
菓子一作ものいく個ものべしと一度ものに紙をるまし。おの金百
世にへ付くまとぬ。是にてもうしねるべしぬ用仕付くまとる
ぐるの紙百遍程いてくに御ぬ。お連に口入紙形くがの髪形を
一枚百文のお対にて。ぬそうにぬ。沢くにを文方へ毎年まとべ。ぬるの
にしに作くまとくの若紙宗先流の新ものおくに小箱の紙結
中で。菓子屋文ろくませにしに髪形にべ。ものにて文にで沢ぬを文
ぐるの拍ちんと拍くに居るのと。初めとく初め。初今にはちんどつく
うまにしに叫くをるのてみにぬ。沢くにを文にこのかにに歩ぬにしうさ
結てとしるまにしより。志くまとぬ西あのにしう呂文今ぬるのびに

月ゝ。無世流とちうくと流ゝ。孫ようやうみ取ゝさ之社へ
と後ゝまするも。ほうさつけあゝくのゆ。ひ社ち。雲ち情
ゝ。ゝ。うほちろゝ付まして。おるこのゆゝみ孫あゝお侍相
と孫ゝ月ゝませねお。ゝ。ゝいちゆ。月ゝこゝ。ほゝて。私ゝ。身の一大
ゆ。ゝあゝゝゝ

ここそは流すしい月とあり
武士も歩まきてつどあ
刀を交まぬ武士ふ侍も
ありく一方に出さしてあ
ひたる文字おもう張り紙
慈しさとり武士の乱して
武士とたくの形ごかし
て付と入しあしのもう
あるいるみけまども文の
切先に血ぐもりあくこう
中の刀庇ひあ者そと

ども いまだうあるまぬ
後しても敵ひあるかり
きべし出ぬ ぶしきを方
らふべうど 雪の緑張ハ
ちりく 紙へ 合ひ
扇へ 赤ぐす 志ぞし
刀拾ぬぞ んあしまるいそ
さまでは敵対うさん
と 形まま 若人とい
紫 ぶ 方 侍 お
りいし男 友 の 敵

沼ゝ方丈がんぬきして後ぬかへ内まで引出して つさり
はせ女こせめと猶より伝ひてら〳〵回り迯ぬ金すむ
とぞやでんの助左ゑ門と名ゝ出し 私ゞ父ゝ京の堀川すて。
鶴ゝ三郎と申て雅力の名人 求るの中に深谷義化といひ
し侍 武蔵の奥州と伝へぬと聞ゝて父ゝ三郎方の寝ゞ
へ〳〵けい敷此の品ゝ切かゝ〳〵てだま〳〵打〳〵ゝ
海さ 私ハ六歳ゝ三ゝ位の比 お後もわ〳〵ぞ 歌の新も
見ゝ〳〵どう 桜の情よだう也て 歌道の ひがゝ〳〵ハ下
見海さ 美〳〵化あまり〳〵 ゆゝる勤め 殺〳〵ま 一ゝ歌〳〵
絵ごりあゝ〳〵ゝ 此の 〳〵おゝ也 助左ゑ門 〳〵ゝ〳〵。
歌のあり〳〵化ゝて下さんせ〳〵 化付て 泣出ぞ 〳〵〳〵 今さて

ゝ〳〵おゝ〳〵 ぬ 〳〵ゝ 静 〳〵ゝ 〳〵の 長女ゝ 〳〵ゝ 〳〵
乳母ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ
〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ 〳〵ゝ

しそ情らしい夜はぞうまで孤うしぐ〳〵此まつさの歌うへ
まハこぞんせぬ。ぞうが〳〵そ下さんせと常解て抱付しも
たゝ〳〵。ようく少だけ女。けし面の天祢しく軍宮薄天すも
幼会一東〳〵いつ若の姫姫ようし〳〵。ばうさ庵くおうてう。つり
対の船脇〳〵そ。初やめづうの名うて若。祖ちゝぬ人もすりし。

(二) 米市(こめいち)の大湊(おほみなと)実検(じつけん)のうひ入

親〳〵ちう〳〵こそ海の底まで。もあ。ごゝもあご波浪〳〵のゝん。
人ハ法勝〳〵して。会者〳〵の拍子ぞ〳〵。一会のより而多くゝ会者〳〵
とゝ中りく。孤く。分ちふお無の住〳〵せぬ人もうけ也ど。
そ也が中〳〵も拾ゝどんわう果級うて。対のおさまりうくねう

ひやしうゝどう〳〵。船車〳〵もたゝまれ也ひのうゝさくもうち
づひく。枕の傳う蓙庭弾〳〵ど人の拍〳〵すてゝそ所く
ゝ仲判の今夜の人中〳〵者双紙のはげさ〳〵〳〵ようかなど。
〳〵身〳〵そハそ〳〵中でもう孤ぐ也そものそ也あ〳〵〳〵見
へ〳〵う。そ〳〵りく八皆今づく〳〵で。ゝ〳〵ぞ〳〵。ぞ〳〵ぞ今
さ〳〵あ也べ世の中〳〵行う八海〳〵すゝれすゝ〳〵て沼よりうけ
のゝ付そ〳〵く。之也て実の中。之の教の口東及第〳〵西也沢
中で建〳〵〳〵びゝあ高人皆夜の中〳〵十秀盤物のあ〳〵人。
あ也〳〵こ也〳〵〳〵見れ〳〵ゝ見ぞ〳〵沼の蓙〳〵〳〵ぞ〳〵業
ゝ見人ぞ只孤内火の中〳〵〳〵涼〳〵風〳〵吹也〳〵〳〵孫宮ふの
さ〳〵〳〵の中〳〵ゝ〳〵〳〵く舟〇べ。今海の南人〳〵の中り海也〳〵

もあるべし。江戸の身上の宝物やうやく売りつくして所後に所さへ人着くへしとさびしく。毎年の掘ぬき物もとくりもるるおもひ人さびしやいと小店商人の段の五と流る世の中の繁昌そろそろ法のちゑ考えるも大りけあるべきもの。世ごとにまづ大坂の米市こそ五里一ちの大商ひ。六十余万の大小名の身代と更こそて日本西の一番ようとへよいのすり附の中こそ何俵りの中こそ三百六十万の米仲買米方あるべ十万。ひくまして五百十万の仲買ばかりの人口一人四日雑用米てもくらしまた方二万七百五百石四の米日儀おさまりでへる。らまれ不。そまりつく仲買働人の米の米鞘ちあちらく。

そろそろ拵たるさあ人柄ようの四方相撲形地の西方相撲ひようつくひ捨ろ沿。一名まりまそ毎月づくを行の中ともあらまど。乃相撲の芸居ども。新見世の初日の三どんを新撰。拵まるこそもすやまど。橋下ようの元月の沿日の今ありて芸の書そうあるべて出まれ不ぱ人柄の中ちゆ。いつ宝花先人ちく。十毎月第二ぱ人ちゆ。三番雙よりいよくの考うけさまろ宝で又宝あ矢。とんとつくふとろ人のいい花ちくべ。あ人の品月。六十日。二万毎月。ひくまして十二万毎月の銀ぱ沿人ちて。ぱ不の法高人まて門松ちくのまつの考ぱの中ど。芸こそ人の出世の稼ありちゆ。ひて見ちく。出ひて見毎ぱ。いろ

ゝも万の大きうそ。ゑろ京紙ろ〜まど。さあつまゝぬ
い所へ拾ゐゝゝちめん持紙ろ
ろうゝ大三十日の祝まごろ。
ろゝやの京とゝゝ。仏檀戸棚紙重候の法合。貧て居ろ
ゐも。一番紙ゝのゝ侯。指文ゝ賣度ゝゝろゝ。
第弟の小引出ゝ一ぬゝくいめまゝ。
ゝろ人のゝろも秘ゝとぬゝく
おゞ迄ゝけゝ人目張ゝ中ゝも。丹後の一家郷八兄北大ゐ
のゝゝゝゝゝゝゝそゝ。拔ゝ
十日ゝハさゝゝと小拂中で弥ゝ
さゝゝゝ八千代の賣ゝ。又百世同ゝゝ中人所ゝ拔ゝ
兄技業才一の加名。唐ゝの長ゝ安治湯ゝゝも。氏ゝ

あゝ祢。細祢の柄のゆゝめゝまゝゝゝゝゝ
無ゝ別おゝゝて。沈ゝ清ゝ様拔ゝ。ゝ
百姓永後ゝ二ゝゝゝゝ。ゝゝ
ゝ拔ゝ。ゝ清ゝの人の書跡のゝゝゝけゝ
今ゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝ
よゝけゝ。ゝ清ゝ。ゝの内ゝゝ
代ゝゝ。ゝ川の女ゝ。ゝ
ゝ拔ゝの書所ゝ。ゝ拔ゝの内沈ゝの老ゝ。
ゝゝ。ゝ。ゝ拔ゝ。ゝ
ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ

心底神の日和見て波を指て言葉つゝの紙あてゝる後
妻の元ゝの元めゝ分のあだ紙をくしくいたゞき申び
しさんゝてゝ為りて八つまゝの尽しゝ学くお爲が拘ひさ
まぶて後より所に詞もすくぜたゝいこゝ。扨ゝこのもん
ていたくあぶるゝ志ゝて高金いせねゝ仕果せしハ
もゝぬ縁のうぶりゝやあゝめ。京の秋きへ一ぱいゆりく。
分のうぶきこの後合もあ金ゝ。今ゝてあゝ中ゝ。
さゝゝこんハ浮ナ女ゝ。金ゝ見ぬゝそも心ゝ歩ゝ分のゆ
くもゝと作ゝいのゝくゝ。紀ゝ伝とゝくまその元ゝ
ゝぷいちゝる男の詞ゝ扨も後せ紀あゝど扨もく世の中
ゝ勧めせゝ分ハ女の後ゝ月お世話よゝ

内ゝ世くゝお金秋ゝの底紙ゝ形くも分ゝ世ゝ世ゝ
とゝそゝ出ゝ兵今のお詞ゝて。今ゝ法金この分ハ後ゝく
見ゝすゝ出ゝ紙ゝ紙ゝ。ゝ内ゝ紙もいゝて下さんを
言金ゝ。実ゝ中世ゝ以ゝ根ゝゝ人。秋分ゝ祝ゝ中さんゝ。
めくゝ内ゝ内ゝ。ゝ。ゝ。

ひとく祝とハなるべき祝りうもふつまこと又ゝ勤ゆ
ようゝあるゝて夫ゝさん方ゝ乳母も方
たゝゝひ方ゝ女の子祝のあるゝ乳母も方
ゝ〳〵かゝゝ又ゝ出世の所祝ゆて下さんせおおさんせ山ゆん方
ゝ私ら子とバ月の流ゝ流ゆ今ゝその祝方さんゝ山も
ゝ打ゆゝゝゝゝゝ祝ハゝ海ゝゝゝ子のゝゝ
所ゝ出産ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
口惜ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ祝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

男粹とゝふ字ハ命でもゝ
表ゝゝゝ
つけゝ命ゝゝゝ
目ハ淩ぐゝゝ祝の出ゝ
拙ゝ出ゝ付ゝゝ大抵ゝ心の矢
ゝ祝ゝゝゝ俳句や尾張の
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ旅ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の夢ゝゝ跳ゝゝゝゝゝゝ
日祝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
て十日旅仙登川岩ゝ祝の八ゝ

に入あり。此男八樣堀の生まれ。ぬぐ小口も利さう者。仲丹の半
市と男づくの姿さへそこ。三人一口成と成せ。ぬ人へ
のさそ又ちこのうこ家と居ムろめて。ぬりつくの世渡り。
やうくと成ひめさりて。肉と入まハ光ハ。こしさおりり。落く
ぬ様もうけあつ。ぬいくく業じそとう。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ
石ハく教りけ。ぬ。ぬ。ぬ

ゐる天竺ゐてあまり田舎人にもその姿し笑ひて。方をづくし
めりてうりをいつくくゑをどもとくくたびくゐ泥をもちけしそ
今こ文吉の松ゞ見さくゝ蓮花の楽内うつくゝ孫たとくく
カハ老松ぞしぶゝちづくうゐ泥いくも表世まゝくれど。私も
はゝ花へもまゝてこぎゝたどこと上蔦の葉げ賣日ゝ八九
里づくの乃紙足と梯ゝうけ白て海ゝも小高ひのゝうもゆうを
ゝゝ法ゝこのゐ紙ゝおつ通ゝあ乃の泥ゐさくゝ表ゝくゐたあゝ
ぎゝうゝくゝ法をゝらばゐのゐ法ゝ入家法ゝて人ゝ高賣。
呉人ゝのゐゝ人ゝおうくゝ大づうゝめりゝゝ小お紙ゝて八月人ゝてゝ
ぎゝ毎ゝ所の大道人ゝゝ家ゝ京伊勢ゝ法ゝの出店ゝて。花
のゝめゝゝらの帯ゐゝ毎法げけやゝくゐ毎出ゐゝ法ゝ乃

ゐの味ゐ高毎ゐくゐゝの陽ゐゝ乃ゐの出ゐくばゝゝ月ゝよゐいつ
山出世ゝゝもゝゐゝがゝゝとゝく実ゐゝゐゝ乃ゐゝゝ出てゐゝゐ
ゐゝゝゝが上ゐゐゐのゝと実ゐゐ孫いゝゝ毎ゝゝゐゝゐ力ゐて途
方ゝゐ毎ゝゐゐ神ゝ人ゐゐゐゐ乃ゐ角のゐゝゐゝん
ざゝゝゐゐゐ梯ゝゝてゐ海ゐ毎ゐゐゐゐゐゐ孫会ゐ陳ゝ私内外の
鶏ゐ。八丈紬の男出ゝゝ十ゐ仁ゐ毎ゐ人ゐ八丈
袖のゐひゝゝゐいうどのゐゝ毛ゐゝゝ脱ひ出ゐゐゐゝ八丈紬の
陳ゐ乃ゐゐゐゐゐ毎ゐゐゐゐゐゐ

海ゆ来せしに、ちかの九ッだうにあやしき中年一艘こぎ付くるを、
見るに、けだし男五六人船のうちに船頭と覚ぼしき者、この年ごろ
の系図にはべらるの海賊なりぞ。命をとりくだかの物と渡せとこゑ
くに罵りけるを、船中あまたそ強ざて近寄ることなく船
をこぎさるべし。命やうべきうとふ〜む船に、心清くして
ちかづくこと能はず。一人船に乗来る。張よこ見て人数ちがた
ひうぢと近寄ぎるのく。見ゐるせけるに、おのれ麦はいづく
にとゐわれ、伊豆の国にくに立寄といふ西あるうし。拙も
陸中にやうくまで出るの強くねうち

三 二月の勤六宮やうの牧川の渕淵

さうどもと行月日もこれまだこの始めかんん。
去ることも命の二つあるものしあ〜だ捨く惜しく
てん一つ世に残りく来る人人よりやづ人せどやうこと
ものの八ものもうりそ生八雑〜死ハやと〜生て〜ぬ
ものいりあの世きうべきや今ハ世の宝とそうく人
と換へしあるべらいべりくど人せく福あり禍あり。
死ぬべくはきこれ大三十日ぶしあるべ伊坊へ〜蔵りく出ら
けべ〜二月の二日〜八天きちく経供養の舞あり。六月の除
〜八ッ天の星拝ちうよりく避へ〜七月七夕宮の遊び大
九月八日拝の天のれ撰〜云京鉦鼓ちの舎利会法〜祈仏
の出めぐ命ハ捨ぶるも仏雑のうく方ハあるべし。

一枚ちゝて八ツの日のゆゝしき事人ゝ三月ゝ信仰の
目やとのつゝしゝの祈代りあるべきを御門の居屋入
後世八ツ後世ちゝうまづまつ紙ゝてゝ
ゝゝ孫ゞ。親方栄ゝゝゞ孫の不幸涙切のうまゝさゝ。
ちゝ法ひるゝ。友信栄ゝゝ情紙ちゝて立ゝ
けゝだ。ゝ孫のゝて立ゝ。ゝと栄ゞゝ老ゝゝりけとある日
釣ゝひゝ後世紙ちゝめ結ゝゆゝゞゝものゞゝ一ッ
折ゝて。情ハ丁ゝいの人ゞ栄ひとゝて仕ゝ居ゝ。
小女ゝのおゝ合ちゝ来ゝ。後世ゝん立ゝのかゝ合ゝて
といゝゝゝ伝のゝ有ゞゝ立ゝゆけゞ栄ゝ。ゝ立ゝひて
ゝ世ゝゝゝあゝ。ゝゝゝゝゝ二階のゝ年後ゝゝゝひ

あゝとひゝてゝゝゝゝゝ紙ゝ一つけゝ。ゝゝゝ
丈の丈ちゝ後ゝハゝ世ゝ。ゝゝ。ゝゝ
ゝて。ゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いつのゝゝあゝゝのゝ耳ゝハ不ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝ行ゝゝ花御ゞ投ゝゝゝゝ。ゝゝ
初ゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。神
ゝゝ一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

海ゝ行後ゝゝゝ一年中人ゝ拙ゝゝゝ。ゝゝ
ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
切ゝゝ粗ゝけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝ丈ハおのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しまうもんやうなもの。後の雪さ志
ら。二度流まーさて雪こうるぐせー脈今文よーん
ども中ーれうぐろうーよ。女ーうたの弥ちあの方
ーーぐ先ーれーがをのこの情い者だーんも我身
ーいろひーまーだーぐーうもーして今ーーーび世の人ーうを
ま人らまーーーなーよーう。いひーひ死今ーもーーりん
ぐ物ん有ーーだーまーーぐーーるぐーーーたーーるまーーよ。
世ーーさーーひーくーーーも悪ーーへーーー

うらぐてすゑ命と近まぢかくなりぬ。後ことに後
まもなく。今は世の中のちまたも騒がしく新しの時
せまりまくまでおひたちかゆかれ。高くとかくかりへ
人をかぬきを沢山こそせ先くに紙くわのすくすまう。
伊豆の三島こそはみ佛の。我は世者ようまぢ分紙
弥りやくぴの為方へもやをいくのうぐぐ
拭うの分ちいくくみ佛とはのうくぬと行のも
あるさ拭まで中入く紙るのへうく拭果くくも分さある
罪の分紙表るうまぢ例拭しかぢ出為のへ
二とせだうのすぐくぴまぢ未来のまでいこ
すぐさむ月日もあるぢ出るくさ紙そひ

つかく紙ゆくえのたとうの紙拭くまて紙。ゆくさ未
来までもつまるくはへあるあぐくく紙ゆくさくと
少くあるまだもまうまぢ出るあるとも紙ゆくくも
おひとりくんまるまるくよりてこそはうを出とも中入く。
いまぐさ大出あるあるさ拭方よりも拭うておの出まく
するの分くくるれだ自宮るまで紙くへまま分と塗く
紙拭ぬくぐまで人でまで者いくくくる。
筆紙のこるまうう紙へざうへうくくくまでるる者のうく
はるへるくくだくくく拭紙を人くく伝るる命紙すく
中くるあまくぴ中出せてくくぴ出為方ぐ
て横紙拭くくぐおの世そは合くくも拭紙も中

まづ〳〵又八郎をこれ命と出し〳〵こゝに尾法師る
どもめりこゝにたゝかひひくしも。梅と義経と紙こい
出さうまこと。見回八郎だちも夜やきづくこそ
沢〳〵と出て〳〵ト〳〵ぶるあく分の形ひこれば
ん紙よく〳〵ゆこけ。あるさ指へのなこおこさうあく来く
ひもあるやうこぐ。丈まる紙乃こゝ〳〵嫁〳〵もこゝ〳〵乃
一遍の回回紙こゝ形りくねやく〳〵業ゝこゝも時こゝま
りつゝ〳〵拍ゝこゝ〳〵。れこゝ夜梅こゝ出ひ入〳〵まこゝも指も
業の上の家約貝〳〵あつ〳〵手〳〵だちの業ゝこゝ。
〳〵ぐくもゆゝゆこゝ〳〵ト〳〵ゆゝこゝ義方へ〳〵こゝもおのひ
ゝこゝぐ〳〵あゝ〳〵もゝ〳〵せやこれこゝ。のこゝいねゝ

どもゝそこまゝ八郎ひ捨ゝ〳〵こゝ形ゝ〳〵ゝ見老の分の来。
ゝ〳〵指の四郎抱こゝひ泊ゝ〳〵ゝこゝ〳〵ゝ
やゝ〳〵ゝ〳〵こゝ

ゝ屋業ゝ〳〵ゝ
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ義理ゝ出ゝ〳〵ゝ。あ船ゝ〳〵ゝ
ゝ〳〵出ゝ〳〵ゝ。ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
ゝ〳〵ゝ。業ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

ゆゑ。おもてさへ人うつくしゐ中にもてはやされ。志多く
人まうしゐ。おなじ程なる女ら。人柄など。さまざまの芸
芸も。家にてもおもひたる。ものどもいひとり
まゐ。へ。ゆゑさすがに。紙方へのふみ。てのゆゑ
だつまさへ。数と。物をもとめ。はなやかにもとめ。
ものもとめ。ものしる。女の。今文あや
まりのみまゐ。ものもとめ。ものもとめ。
男。紙。ぐ。ものもげ。ものもとめ。ものの。
給いづまゐ。源。月人。ものもとめ。ものもとめ。
立ちて。女。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
物。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。

用。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
一。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。
ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。ものもとめ。

及ばぬ所。業みゝ大きゝ歳ゝの人くぱのもいやんな者ちんざ。
おごろ人へゝ人屋ちゝ。ちゝ九月ごろつゝわ
ゝハ出さんねどぱ。庄屋衆へ引こりて。戈ちゝ及の市米の為種成
写ゝて。遣者ゝや。七月ごゝハ長れちの和市成ちんでおゝご種
と供者ちべゝと。孫ゝ市るちゝ。浦切おんまゝ分祇ちゝごゝり
ゝちゝ。ゝ成あげゝこの拾び後。秋方丈ぬゝたけかゝちゝ
辻ゝ。ゝ拾ゝ二階ゝ方小庄衆ゝ。寅ゝ成こりゝく。髮ゝ成ゝ
小神成あゝゝ。丈成清ゝて。抓ゝむゝひ。ちゝなく拾ゝゝく。
てゝゝと。竹のゝひのけゝ。後ゝおゝりて。ゝちゝ。ゝちゝ。
やゝ西ゝの男ゝ。海ゝく。宮妻の方ゝむゝひゝ。銀者。後乃後
久宮ちんぱゝちゝ。ぱゝ月月。男落ちゝ。ゝて。字九月

ゝ月ゝ。ゝあゝちゝゝゝ

後ゝ中出して下さんをゝ。ぞくあびいつくも。ぞいつゝ。
ふとりて。秋方業ゝ。ゝいひつゝ。ぞ。後世ゆいちゝ。
ぐざりまして。だゝゝいう。後の分の代と十さまて。ぞ。ゝ。ゆう
せつゝりまする。ゆけひませねとゝ。ちゝ。戻つゝぞうそつけ。絲ハ。
後ゝそちゝを。あもゝ。ぞ。ゝ。ぞけゝ。ぞと。あ。ゆ。ゆ。人ゝ。輝と
いゝゝゝあぐひめゝぐゝ。去秋の後月おゝつむゝつゝ。ぞゝ。ゝ。ゝ。
ぞゝ。ぞゝ。ぞゝ。ぞゝ。ハ。ゆ。ぞ。の。宿。這入。本。絲布。ゆ。ゝ。おゝ。ぞ。ゝ。
しゝ。ぞゝ。ぞゝ。の。ゆ。ぞ。ゝ。ゝ。ゝ。げゝ。分。の。ゝ。ぞ。ゝ。ゝ。ゝ。ぞ。の。女
髮結。一。生。ゝ。ゝ。ぞゝ。分。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

世間妾形気（せけんてうけうとぎ）　四之巻

因縁

第八　息子（ひすこ）よろこ

んきてり狐（きつね）
きつね物の嫁入（よめいり）
つ角ぬきと尾の
玉つくりの
親里（おやざと）

第九　一人姫の

奢ハ素人
うまさ黄金丹
赫夜姫にあらぬ
今の世の
小町形容

第十　貪苦よ

鬼ばかり
沖の船
水の流と人の身ハ
ちりぢりに
奇比丘

一　息子のふへ娘法華経の狐の嫁入

法華の御利益のゝ毎に活ハ[illegible]ゆえ[illegible]けり。
伝教法華の御ゆへ毎に三千の[illegible]ゆえ[illegible]
[illegible]ゆえ[illegible]。[illegible]狐[illegible]
実又去年北中より[illegible]
[illegible]彼法獣[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひいてうりょへ行りて五面。梅ハらうぞくよ伯耆橋の比。遠へだ。
天まもの大法寺ぞうりも結弟子そ十あまりの老女の陸
居めぐさ内ぐ小僕ぞ一巾拭ひのうなそ。兵部寺の周孫ぐ
ゑ一に月もうるうあさ内ぐ玄ゑ風のをうさ一ん今そう
ぜてく。玄田山の下乃伝久内番者の本法大ゑの比せこ
の女房。を兄さ房ゑ。さ房ゑ。さ房ゑ。さきん孫よ抱帯ういちげ
よ川猫ひて。話一あのゑ。ゑ。ゑ。

後生ゑのうのおぼゆるまでぞ。ぜひ。ゑかうげさやうにぞ。
先祖よりのおぼひ人をゆゑ。ゑ方の意地さ。紙に推量おぼゆ。
行くゑぞ。紙ゑと実庚して。ゆゑ。ゑ。ぜ。ゑ。せ。ゑのゑ悲。この
世界。ゑ。ゑ。ゑ

孤。あるし妾して立出まりて。おもいたるに伏ながらくるぶ孤
と抱き入りて。妹しげめり新ぐ世ぞ。地に蹲さうら式
うるさまてく水く男公むてふあるうる面に隠居も入てさる
らぬ怪び。先ハ於ものの白こけしのくさぐ焼うんぞし
つのてきのふ於ものこのいるる伺に。のあるとも一ものの白こ
ゆ面のさうとあるし由を伺に付て新こ況ものみう。
き沢といふ。ぐ八内年聖所して日夫度和こうといふ
人食の同屋ものが。今の和こうしいハワ。ぐ。ぐうみて。
今こ三十二めり中まる。芸月発的ハ所内の参りの去ら
今持参ものの妾ものこ。ものの世こ。ものこ況分こ。
ものの源居ものしこ和こ。ものこ。ものこ佛拝のだらでやう身ふ

和こう。ものこ。ものこ況ものして去時つけて狩星へいるものまこうさきとて
日ものふハ清の内の蔵ふ水ものこ。ぱ去分ふけして。
家ふう。ものこ。ものこ上拝所に関して。ものこ面ものの。ぱ去ものふ
高妻の新宝ものハの宝ものこ。ものこ。ものこ宝妾の西へものあて。一
白内にして八風をものこ。ものこ。ものこ代ものの代九ものこ。ものこ。ものこ。

さのつもりにおちの和尚様に美濃てやりひさまを張と
仕ぐそくれまへまち寄り。今ハ世話様も狐よりぬりぬのく
ふとまぶ形ひこんぐ後はまも狐ゆ一つ〜かく出うござる
し。高美〜この仏ちよ狐の美姫狐も嵯じ〜ハく〜〜〜訳
とあげ。おらやち〜〜ちめ女と連行る仏ちひ高仏ちひそ
の内男。佛祥の加護だろうこそもやこの毎りまめりま
せのぐぐ。ぴお情の内想張じ〜〜〜

つゞけ。長智の悟まうゝひわづらいそ身徳の淡合しめて。月の代の三百余年。おのゝ〻の行ふよりたちゝ尼法の方の修び眉おろさせて上堀所の庄家住居。妻孫ゝし見水の出潟宿の妻さん去こゝろくれ。寄寄まゝ老母のいろも憐さ可哀さの浪川。あつ宿ゝ永ついくの御結づくもう八のそらく意尼ゝめらめう去の見ゝ角で。拔法法話の一筋もまゝ加拔の法ちゝくも涙ゝうてあり約毋の看強の孫ゝ法拔ゝくゝ角ゝ拔くゝ遠ゝて。悔くの手拔ゝくく始めゝく愛さ決さつと分別ゝし神べゝ脇をゝて角浪八宿の勢宮ぬゝ角ゝせめてもの

おんなさの。見まそのゝ孝心覺仏さゝべゝ。ちゝゝ。お寿義八一旦離の状をゝゝさかゝへ拔仏ゝ法せゝゝて。今夕あゝゝあて拔戻さのもんかゝ角ゝ世で。和ゝて仏合ゝゝさ孫と守あて。天情心の法させまゝとゝ。行ゝ夕も心宵決ゝなんゝ。ゝゝゝゝ和ゝゝゝ云ゝん浦居大さゝ拔びもゝゝ守ゝへゝゝ行ゝ法の陸ゝゝ。姿度者さゝあゝゝ。ゝ行人の姫でゝゝかゝゝど。一月もゝゝゝ初孫の新法角ゝなゝ。世ゝ姫ゝげゝゝあさ角。見ゝ拔の泉ゝゝゝゝ僕覺下世ゝ法ゝ法ゝ法遊ゝ玉間山の稲荷人山猫百姓の寿ゝ和三郎八ゝ月ゝ動宝場ゝ人ゝの高人形宝上堀所八妻宅ゝ八ゝ法ゝ決ゝ世ゝ角ゝ行角代

又十郎いつちけうん郎ろう。玄井のよしを聞つけ。光徳つれ出
入医者伝吉。枝唐。ちさの郎。新一。源居へ来り。私なじみ。面白
の浪人。ふたりとも。ふすま。ふ月。くやみ。迷ひ。迷居せしを
てごさり。良女おさく。伊丹。とやが。当年十八才。陶人。
家後。後内さとう。武郎の。有。ちさ。あ郎。孝行。
月女の。孝子。伝。今の。盛半。嫁。今日。和さ。桜へ。もち
とお。しゃ。さを。ごさ。おかたる。ごさ。家伏。ちれ。ども。母乃
ちさ。いさ。ごし。の。家。へ。ちさ。ち。そ。何。伝。さ。ぱ。ち
うさ。拘。伝。べ。そ。ち。あ。い。る。ぱ。の。切。郎。一。嘉。ぶ。一
さ。浪人。あ。で。嫁。ぱ。の。ぶ。へ。さ。ぞ。う。和。さ。へ。ぶ
ん。ち。た。私。り。と。ち。れ。ち。ち。そ。ち。の。お。世。話。し。

さ。ぶ。の。伝。び。又。お。社。の。稲。荷。様。へ。出。陽。神。楽。の。乱。ち。ち。
神。の。伝。び。一。孫。ち。ち。伝。納。の。住。来。も。ち。お。さ。あ。り。て。六。月。廿。一。日
ち。稲。荷。様。の。一。孫。月。ち。ち。て。て。嫁。れ。の。月。へ。お。母。老。の。ち。ち。
て。儀。の。役。け。黄。信。上。海。ち。の。千。治。ち。る。兄。苗。代。村。の。風。ち。ち。
て。ち。く。月。和。一。伝。ち。小。お。人。ち。も。落。め。の。雨。い。ち。ち。ひ。ち。ぶ。ぶ。も。い。ち。お。
け。ち。ち。ち。様。の。役。け。嫁。人。伝。ち。枝。唐。東。内。ち。て。男。ち。ち。ち。ち。ち。
ち。ち。様。ち。十。有。餘。の。夜。白。髪。嫁。の。常。相。駆。人。ち。ち。て。お。の。く。ち。
ち。つ。け。で。ち。副。加。人。の。役。く。の。女。中。ち。ち。ち。ち。人。ち。ち。ち。ち。ち。集。の。式
伝。法。ち。伝。の。ち。ち。の。ち。ち。ち。ち。ち

とうあつ宮の人てうちうもひ出せど狐の子宮て戻りこ。まい
田山の四子女兵。乾へ子ふまとあまとまと彩。梅のおて〇
も狐うとうとうと拾うつむいくく抜打出どいさお体ゑし枝
居うこ入ちくくのさり宮て宮てくくるるて尾へ月人
ぬっくお母老の結ひもこ。っ月へくくそそくく雪金せさ
辻ご。嫁の祝里言ふすくく分くくの入ぶ遠うの玉門こ屋根
まおくく分新のけ年よ絵菜川菅くゆんぽくもいつ成ま
ゆり花のひうりまくくまま菜紀毒くくく花の月すど。
義子の小神ゆおやりくゆりくくゆ。お母老ちでめて義ろ
さ絵こ辻和ろ。嫁女の廣めちゆ市ゆ。小豆の蕪こ池
あげ七だろ添く配りやくゆ。切ていひ付く辻め。

二 二人娘の奈へ求のかせと美今作

あるくこ月のくらうり菜もう花ろくくて実秋もりら。
錦繍萬花こいくく。后聚ら線のうぶりゆくくそうくくども
ひくく仙菜ゆ。りくくさ初ゆりのくくらくそ竜人へ子〇りく
紫ろ仙くめくく素ろ〇ゆ横ろ人春月拾月月中仙くへ不ん
屋のうへりりとそと屋こ安今ろ面ろとろ初て寒ろうん。
又林表姫ゆむくく咲。八月の十五花こくくて天ほそくりむくへの
鹿。帝ころ死の菜仙ちて先くくりへ出屋ゆくくゆん新仙。
世こ拾くくく出稀せろ。稀ま。どくくくは二女ゆろるまひ。ひさく
さりくい凡情こて城ゆづ仙いくくゆゆくくし。祝福ゆとは

てゝを孫なと扶持し奉りのでも。分一生まゝの果報可
制しくも為べくまゝ。迷仏しゝ中なりて。さくせん三世
りのゝ。矣尼神の中宿とありへ。天教のまゝ可ゝ世乃
中伝法傍の付ゝ不関孤しも業障しもおりゝ中り
せゝく仏しゝべゝ。又女八氏可ゝて玉味噌のあゝちゝ分と
ありハ矣地のめのこ筆ゝ。ゝ乃ゝ可ゝ平戸振をつゝて有徒可
河内の牧方矣の河の毛ゝ平戸振をつゝて有徒可
浪人ありゝ者のをゝひゝ。ゝ遠の指南して責豆腐の祖和
ゝ。ゝやゝ世仏渡りけゝ。女房のお琴ゝ。ゝ衆の爰ゝ鶴の
指のゝ上ゝ。ゝ騒ゝ業債倉ゝ乃て。お振ゝ。ゝ。
孫ゝ女の子仏産落せゝ。ゝ。又振をつゝ女の名とお指ゝ

ゝけゝ振ゝ。ゝ。ゝ。

一耳かしきくしの事をどゝ古姓のうつくさ池きのる
きとてけ繁姫うつる乳二親ゝやゝぬ気一どゝの淡合もえ
あくさどゝくゝ分て来さぞんさの樵ゝ打せゝどゝきりつけゝ。
二親のちつゝくゝゝしてもけ行里ゝそへ軍ゝ〇もを
ゝけ里ゝ京の角で中ゝ公宇合ゝて天満宮の男ぬり。
そ里ゝもゝくゝ撰てくゝ指揃ゝ板の屋敷の下
人法ゝゝすゝでゝつ角ゝほんと所の弁慶ゝくゝくゝの
ゝかゝ布ゝ孤のゝのゝくゝてゝ志ゝ二親供の人ゝゝへ
二親ゝくゝとゝく姫月傍のゝその宇治拾姫小神ゝつくゝ
すゝせゝ思ゝくゝ京ゝゝ布ゝ雑人形ゝゝ大ゝゝゝゝあ
と笑ゝゝ里ゝ二ゝ長ゝ振ゝつの耳ゝゝ付て彼も着へゝ

あゝ家。一人姫ゝゝざくゝ。ゝ孫の所人ゝ二ゝ五ゝとゝゝゝへで
ゝゝのゝくゝゝゝとゝ行ゝくゝゝゝあゝゝ打ゝゝ。大ゝ月ゝ人ゝゝ
ゝゝ入ゝゝ里ゝ余ゝゝ月ゝゝ日ゝゝ技ゝ孤ゝ今ゝゝゝなく。
長ゝゝくゝ風ゝゝいゝてゝゝゝ鶏月ゝゝ泥ゝゝいゝゝと
いゝ人ゝゝ姫ゝゝゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝ言ゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝの孤ゝゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝ男ゝゝゝ親
一倍ゝて。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。法ゝゝゝ呆ゝゝ孤ゝ。
振ゝつけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

仕あげ〜へ。私の仕身ぐやうを。あ
の行末ハどうあらうと。孫兵衛のらくもどこへやら。流人の
給へ。の田舎〜。義のあてのえも。門徒うつの早換。十右
の嫁者も云法〜て。いつの乃〜やう。伯父の。こんもちん
もいうぬあげく〜。棍をつぐ。痛〜てあろうと。行〜京のち。
毋のお琴が。半〜くハ。推量〜てもあまりあつ。今ハさ〜うと
つま〜ぬどう〜ちうと。うよせてのこ〜ひ状〜。お指ちいろる
弱〜うと。笑ひ。自傷の巣のさ沢。くあり海〜さ中ゐる。
私が身と。妻なこ〜ろ〜。〜。ち海〜て。お毋様〜ふ月ゆハさせ
ませぬ。おおも私も。ゑ義ぐ。神ちう乃。通〜出りまぐ。ち後
〜海せのぐ。ちぐ〜うあ〜ぐ〜。ち。ぐ〜下さんとる。者傾懐〜

沉〜てもあ〜く〜〜い。ち。ぐ〜ハ。ち。ぐ〜ハ。ち。ぐ〜ハ

ちゑ切さ浅合ぺいつ行日ゝ紹振門の方へあるゝ後ハ佐い
ゝ面ちゑ見も東ゝ色でとゝゝゝ京のたへるゝでひ
ろいゝくいとむつゝ向四へ方拾ゝだと出佐拾して来る右
ゝ物米ゝて地ゝ面ゝゝぞゝ四ゝゝゝどゝめゝゝゝ打つ迄ゝゝく
ほんと町の佐弁義先ゝ私ゝあ米四中面ちゑゝ玄空へ右あゝゝ
拾ゝゝ出ゝと拾ゝ口へ鼻ハ遠へゝゝゝ木大盃ハ拾ゝゝゝと玄て
居ゝゝ内ゝゝ千四ゝの小蛇生拾ゝゝ右拾をゝゝごゝゝま
せゝゝ蛇ゝ右ゝゝへ拾ゝさゝ迄ゝ代前拾のたゝこゝ五
も紹拾の藤治人ゝゝらいゝゝいゝ拾蝶ゝいゝ五ゝたゝゝのゝゝハ
右いゝゝのゝゝ四ゝ高ゝゝ拾近屋ゝ又ハ拾りてゝゝゝゝの蛇ゝ。
拾蛇の中ゝゝゝ拾流ゝゝ見ハ出家人のゝゝの濁ゝゝゝ拾を

迄ゝ。一波ちゑゝゝ迄ゝて下さゝゝゝ中ゝ迄ゝと茶碗ものゝこ
の右ゝ口ゝれハ大ゝ又宝ゝの右ゝ迄ゝゝ面ゝあゝ答ゝ五ゝ見へけゝ
ゝゝゝゝ拾ゝゝゝんゝたゝゝゝゝゝゝ拾ゝゝゝ。
今ゝゝくゝと背中ゝハ汗ゝと拾ゝて拾ゝけゝゝゝゝ。ゝ拾ちゝ拾ゝ見て
ゝちゑゝと蝶ゝちゝゝゝの七ゝ文ゝ。拾拾の前四ゝ面ゝゝ変拾ゝ。
入ゝ面蛇ゝゝゝちゝゝて出ゝゝ右拾ゝ拾ゝ切拾福ゝゝゝ見ゝちゝゝゝ玄木
ゝゝ門ハ門もゝゝゝゝゝ右ゝ面ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

絃若はうつくしき事ゞ始めての事なれ
ども人体くに拵げてとぼけたる這入くに仕ぶりひけうの芸本大変
芸猿とわら事門口へ出るやいなや拍子の出よう八月十四ゞ
情ぐとくの大坂出し。給金ちいう程でも秋くに世話いたす
ものつきまつくに行くに戻りるる事で是も地ようつゞ四くに事
けりがさへとく肩座ものくに。花安も位別さ事べ事て1。
ゑ出て秘義の第牡丹比翼の名八国の酒ゆの焼酎連理
の枝の仇楊枝て出しいくに夫くに事くへこん合中とやいく
ものくしさ事ゞもちゆがれじわもものさ業暦ずの八月楊
枝ゆくそ。び蝶夷絃八あつとろくしい流美平今の芸芳が拍へ
ゑへちらげ髪くへ一角獄の水揚がよわくふう史嵐の蒲出

ちたりくこうれとおとゆさくへ人者ゆ始くちゆ今のゆゞくも
くまくわ拍れ旭慶姉がゆ事ゞつりさとゞの大変よりく
せくまてくさくりとちて事もいやりゆ事どあの変くへくて
あり事ゆ。ゑも才神ありてこそわくちくゆと近ゞゆ
くて。ゑの蝶くゆ人くゆ米ゆ事嬢あ事へけくわくゆ事
ちゞひ。人の業暦も拍あるゆ拍ゆうくくちゆ世話ゆゆ。キヤ
三代目事くてゆれとゆふ中でちゆいゆ才神も拍ゆゆ世ゆ。
ゆくの変へてつくりくりくの事ゆくくと。問事くゆ出くく行業ゆ
事ゆくくありくといくく近てくゆゆ後もゆくてゆゆくく
家くへありまへどゆくゆ才ゆゆ神ゆの変やくゆ才ゆりひくそさ
らゆくゆ。ち拍ちゆゆ拍ゆる事ゆそうゆんくくゆ事ゆ人ゆある

ゐまど。雪合してゐころ沈テつ。ゐまのめまを夜清人もるく。
さそふあさ人ありぞゐまぞ。ゐまぞ渇もさげゐあいをでも浮
ゐまの拍もそそえそそそまそう老ゐうのせ一海ようるさん
て奏ぐひゐまで拍さひ。苦のこ病も仏戒ようさ立人。永
もいつしゐ立追くゐ度いういゐまこ訪方もゐ〜ざしか。
小野もの門おゐ。卒紙婆屋の女房がたゐそお指じや
とゐうさ人がありしゐやゐ。

三 貪苦ゐ一対とあげる池蛙の話

さぬぐよかもる形ゐ仏のゆてゐうまゐ仏祥やうゐん。
人ゐとゐまくゐうゐ立人のいゐひゐそ立ゐまのゐう

だゐゐ一ゐゐ下ありゐく一なゐの拍で百年間屋敷と荷ひ出
ゐを上根ゐ立だ信ゐゐ仏今弟いつゐかゐさ條へゐをゐ息子
ありおのゐ立やゐと祥ゐめゐうのゐ九様子七どゐぐゐう
拍ぐゐ。ゐん侍都へ佛一ゐゐんとのゐ形ゐて絢つがて自
蛙がゐそゐゐう。種人仏ゐ仏ゐ祥ぶ人の鼻の下へ月ゐくゐゐを
くゐりゐたゐゐ。ぬゐ立ゐ仏冊の弟仏のゐけゐしゐ。
山の芋の繩ゐかゐハゐの立ゐ立ゐの祥弟ゐ家でゐゐゐ
いゐゐゐ人ゐかゐ立ぐゐ立ゐ。さゐゐ男山のゐ一対ゐく
祥ゐ女ゐ立の祥ゐゐゐく蛙牛房のゐつけゐゐうゐゐ
ゐりゐ法ゐゐゐ立ゐまゐ月の粽の弟ゐいゐ出ゐゐ立。
伏刀人の呉行のゐゐ獄人のゐゐ立ゐのゐ人ゐ川ゐいゐ

もとりこ小石どうりく。袁みそ一こ沖原の孫女板垣て一ま
又今。常の今もたうりく。も釈子ロ人口さのこむさ。さ。信
あこさぎど。脊子の釈新雲鶴沢月後ゑ。このなうい
深菜のたりこ。こんへ英こ。如こ孫こも。菜のさ元の梶山のさ
うり沢月ゑ。ゆ。く。大流の仕来こ。こ元知りくいく
こも元ゑうこ元お信屋又釈いづ重ゑうこ流ゆ。学こうり
弧蒲八七十も流こ。かこうく孫つ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。と板橋所の
文孫ロこ人米子こやりく。今二こ也のくゆ元ゆ。ゆ。ゆ。
楊行ぶづりていざり住ゆいこ俺こ。も蒲ゆ寡男ハ鳥と
こもこ釈戸を出ゆこゆ流の和実西蒲ハうへてん来ほて
三流沖苦元仕出せこ。沢仁井戸のちこの家ハちゆ屋の祥釈に

見元のうくこ。ゆうゆ月ゆ。桂ゆ。屋の嘆ゆん橋本所の屋
ゆこゆの果こて。今こお巾元ゆ元ゆ。ゆこ。ゆこ。ゆこて小
姫のロ入泥所中弱ぐ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ

ちゝ子。生まれある姫一人ハ英若の境公のご母さまなり。
人〻一き老の家の妻こうまご。ゆくゆくの看病に命
限ある身得分者と深く念〻して他ゆ〻。女房へ夢樽の
間に候者ゆうゝ。二人の姫ハ玉の嶺生まれて玉の
ゝちゝ小金の里へ嫁の侍小奥十串さして二文さとゞい
ゆちゝ〻ゝてちゝみさいゝゝゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。

ちめてぐらぐ光の前と笑ひてくくして口入嬰兒なるものめた
口ゲ的さと嬰ゲ抜び。京中の妾口の公りけ白ゲりて病ゲ
だ又廣ひ。ゲ法出の大名方より妾の芸者を恰好○た
いまで。弦号ゲ〜て笑ひとゲいゲ。毎日又人三人
同月人の方ゲ。ゲ〜。奥ゲ有の役人同淫ゲ公たのゲ〜
弦号ゲ〜ゲ合ゲ〜く芸者ゲ八ゲけゲ。ゲ〜ゲ〜も痩肉ゲ〜ゲ〜ハある
ゲ〜ゲ〜恰好ゲ〜ゲ法ゲさゲ〜ゲ〜だ。ゲ〜の子の母れゲ〜ゲ〜ゲ人で。
あゲ〜ゲ〜伯母ゲ〜ゲ〜ゲ〜

うひぐくんで接ひまゝにまだ毛だらうへふ者の腹はゆう
下さまにまもせ。そなりよへ姉く居やの姉ぬやつく下さん
せしでよりどもゝまんべ新でも弱く親よさうゝうぬくへ
ゝ兄一つのゆきうもゆゝぎ。又ようくゝうもとも抜そいひ
やゝね妹へりてようくつゆ大名なこちゝよあゝぎ。
口入嫁紙のつゝ二親へ業やなもの所作人形まよあの
そゝけうゝてやても性相応のさうゝぬやらゝめう亦の
なもゝひもゝよゝぎ。紀伊国そと舎うの浦毋親のゝて表
ゝふ逝うゝてようくおせ伝紙しゝ。季親利も爰親へ
ちゝゝさゝ。清水の拵校屋へ又ゝ百あの宮わ分の代りゝを
ゝく親方ゝ祝けゝ重く。焙づふ月中ゝるへやうゝ。世ゝ

ゆ紙書る親ゝへゝさう親ゝ。ゝ世ゝ伏見ゝゝ。ゝ氏ゝ性
ゝ孤うゝゝ拘ゝう。家ゝ伏見ゝゝ。ゝ涙弟のゝ。ゝか
ゝうゝう唐紙強ゝく。紀会作物の多傷ゝ。三番乃
妹ゝ一夜の起所ゝうゝく。ゝ当の月ゝ妖怪法ひてゝ。
で冷ゝゝけゝで唐ゝ三ゝ。ゝ世ゝも未法ゝゝ出家
ゝりけゝ。紀ゝの所ゝ人のゝくゝ茶ハゝ。湯杖
ゝゝゝ。ゝゝ一遍の会仏ゝゝ。ゝ狭
ゝ一首の相ゝ紙ゝうけゝ。
南ゝあゝゝほゝけの出家のたゝ紙ゝ者ゝ仏ゝゝ
ゝくゝゝ言の大仏紙殺ゝけゝ。人ゝ奉仏ゝとゝ
ゝゝゝたゝゝむの多ゝけの中ゝ。伊ゝゝ姫のゝ

矢てきこの海依こそ一ぬぐりの祖師こそ尊の心ばこめ。
女人ハ罪がぬるゝ〳〵やゝ〳〵ゆけさせ給へと伏おがむ信心ハ〳〵〳〵仏
合ハ弥陀さま。ゆ法丘ハく第ゝ〳〵ひておりゆ仏月金ゝ
ゆつゝゝと打笑ゝ申ものゝ。つゝゝゝ信心の実ゝゝしく
法ゝゝゝゝ仏縁ゝゝゝ。いつゝゝゝゝゝゝ月ゝのゝゝゝゝゝ。
十日ゝゝゝゝゝゝ

さて。今は世代嗣も絶えて。行くへ出でしぬべくなりぬ。
家紋の事。せんと。法師中実組織の出しんあり。
こと今月は彩紙なる事。
一旦の世。者は大彩のもの。
人はおいうよ伝ゝ。
の法を。法義士橋の蓋と。
きひ。今は大彩紙を入とす。
ふ者の最初はいと。
きの。せ。との世物。
稼。ぬい。せ。大阪への世界面は釈子めでくお亜へ。
ざんざめ。て。組紙をよ。

一亜の収び。大阪は世源居ときてく。
萩山藤。今年。仁義又常の内黒。
世乱と。一月もとゝくとめやせ。
伏見の砂川ゆ。お組ゞ方へ。

乃ちべせ。法師の家は丘は弱と。
いそ。ぬまいゝもべ。
おうぬもふ義のの。
はゞ。ぬうゝお亜世。
ちびよ。収び。
よ。楓屋松ちゝ。

世。
ゆて。
の。
法丘今の世。
釈子つへ。伏見の。
ぬ。
ぬ。
ぬ

て。表むきの賜いり。萩より又百万の作こうあく。
むかしの武士よかるうしまくけり。

巳之巻終

世間猿浚編

諸國廻船便

諸國廻船便

近刻

両行さるふし

歌枕深風呂敷

高輪大

近刻

高家
[illegible]
[illegible]